

オックスフォード大学
REES センター

LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）の
里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョン

国際文献レビュー

Helen Cosis Brown、Judy Sebba、Nikki Juke

Acknowledgements

We are grateful for the comments received on an earlier draft from Alison Alexander, Richard Brandford, Stephen Hicks, Nicola Hill, SteveJacques, Iris King, Dr Nuria Fuentes Pelaez and Frank Ward. Responsibility for the final text remains with the authors.

The Rees Centre for Research in Fostering and Education is supported by the Core Assets Group, an international children's services provider with a particular interest in fostering services in the UK and internationally and by other funders. The Centre's research agenda is developed in consultation with Core Assets and other key stakeholders in the UK and internationally. These stakeholders include children and their foster carers, social workers, local authorities and managers across the public and independent sectors. The research undertaken and its publication is governed by the University ethics process, and conducted independently of any specific interest groups or funders.

Helen Cosis Brown, Judy Sebba and Nikki Luke

Helen Cosis Brown
Institute of Applied Social Research
University of Bedfordshire

Judy Sebba and Nikki Luke
Rees Centre for Research in Fostering and Education
University of Oxford

February 2015

© 2015 Rees Centre. All rights reserved

ISBN: 978-0-9929071-6-7

eISBN: 978-0-9929071-7-4

本報告書は早稲田大学社会的養育研究所がオックスフォード大学 Judy Sebba 教授から許可を得て、原著 The Recruitment, Assessment, Support and Supervision of Lesbian, Gay, Bisexual and Transgender Foster Carers. An International Literature Review (2015)を日本語訳したものです。

日本語訳作成をご快諾いただいた Judy Sebba 教授、監訳チームで本論文をご担当いただいた千葉大学安藤藍准教授、そして本事業に助成していただいた日本財団に心より感謝申し上げます。

早稲田大学社会的養育研究所
所長 上鹿渡和宏

目次

要旨	4
主な調査結果	5
政策と実践のための提言	7
今後の調査研究への提案	8
主な報告	8
レビューの背景	8
目的と範囲	14
方法論	14
レビュー論文の概要	15
主な研究結果	15
残された課題	26
結論	27
政策と実践のための提言	36
今後の調査研究への提案	37
REFERENCES	39

要旨

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー（LGBT）の人々による里親養育は、ソーシャルワークと里親養育の実践における論争の領域であり、一部の国の状況においてもそれは続いている。世界のほとんどの地域で、レズビアンおよびゲイ男性は、比較的最近まで差別的な法律の対象となっていて、親としての適格性を疑問視されてきた。同性愛が合法である世界中の地域でも、その受容の程度は非常に異なっており、受け入れ度合いの高さは豊かさと世俗主義の水準の高さに関連している（Pew Research Center, 2014年）。

レズビアンおよびゲイ男性を里親や養親とするケースの増加は、子どもにとって、家族構造や親たちの性的指向よりも大人—子ども関係の質が重要であるという見方に影響を受けている（例：Golombok, 2000年）。この新たな潜在層（potential workforce）の可能性をひらくことは、里親支援機関がLGBTの里親たちをリクルートおよび審査し、支援・スーパービジョンする最適な方法を知る必要性を意味する。こうしたトピックについて本レビューは、関連するエビデンスをまとめ、それらをもとに政策や実践、今後の研究への提言を行う。

LGBTの人々とペアレンティングに関する調査には3つの主な分野があり、このレビュー全体で述べるように、主要な焦点はレズビアンおよびゲイ男性であるが、バイセクシュアルやトランスジェンダーの養育者についてはほとんど調査がなされていない。1つ目の分野としては、レズビアンの家庭で育った子どもと異性愛者の母が世帯主である家庭で育った子どもの社会的、教育的、心理学的、性的なアウトカムの比較研究である（例：Golombok and Tasker, 1996年）。米国と英国におけるこの分野の研究は、レズビアンの親権をめぐる事柄がきっかけとなっている部分もある。つまり、かつて異性愛の関係があったレズビアンの人が子どもの親権を持っていたが、レズビアンの家庭で育つと子どもにとって害になると信じている父親に申し立てられるというケースである。2つ目に、養子縁組家庭として増加しているレズビアンとゲイの家庭の親子のアウトカムを考察する研究である（例：Brodzinsky and Pertman, 2012年）。3つ目には、レズビアンとゲイの養親の経験に注目した研究である（例：Brown, Smalling, Groza and Ryan, 2009年）。

LGBTの人々のペアレンティングに関して現存する調査研究の知見において、ほとんどの知見は、自分の家庭に生まれた子どもと養子縁組された子どものアウトカムに関するものである。養子縁組と里親養育の間には類似点があるが、例えば、公的児童福祉制度（public care）により里親家庭に委託されたほとんどの子どもには、顕著な違いもある。里親は大抵、さまざまな子どもたちをたびたび受け入れ、その子どもの養育と責任を親権者や公共機関と共有する。さらに、里親はしばしば、里親となった子どもと実親家族との定期的な交流のアレンジも担う。

先行研究の中で繰り返し出てくる論点とは、LGBTの養親と里親にとって、あずかる子どもの養育を助けてくれるソーシャルワーカーおよびエージェンシーとの間に、支援され、認められ、信頼され、効果的な関係を築くことが重要だということである（例：Hicks and McDermott, 1999年；Hill, 2013年）。養育がうまくいっているときには、スーパーバイズを担うソーシャルワーカー（Supervising Social Worker、以下、SSW）との関係性の質を重視するすべての里親たちとの違いはない（Brown, Sebba, Luke, 2014年）。しかし、LGBTの養育者にとって違いがあるとすれば、養育者のソーシャルワーカーや子どものソーシャルワーカー、子どもの実親家族、里親支援機関、他の里親たち、彼ら／彼女らと子どもに関わる他の専門家たちによる、同性愛嫌悪や異性愛主義に気づいたり、実際に遭遇したりすることである。

この国際的研究のレビューは、リクルート、アセスメント、LGBT の里親たちのサポートとスーパービジョンというテーマを取り上げる。そして、次の課題について考察する：

- ・ LGBT の里親への効果的なリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンについて明らかになっていることとは？
- ・ LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンの質を向上させるために、フォスタリングサービスができることは何か？

国際的文献を網羅する電子データベースとウェブサイトを使用し、20 の公開済論文(19 の研究を含む)を取り上げることとした。それらは、英国、米国とオーストラリアのものである。国と国の間の比較は、文化と福祉サービスの相違という制限がある。里親養育と養子縁組をともに扱う研究ではなく、LGBT の里親養育に特化した研究のほとんどは、オーストラリアで行われている。オーストラリアでは、米国や英国と対照的に、公的児童福祉制度において子どものパーマネンシーの選択肢として養子縁組があまり選択されない。

レビューを受けた研究は 1996 年以降に発表され、すべて英語で書かれている。研究のほとんどは、認定された里親の認識だけに焦点を当てており、ソーシャルワーカーや子ども・当事者の若者の認識などを扱ったものは少ない。調査法としては、詳細なインタビュー、フォーカスグループから質問紙を使用した大規模調査まで、幅広い方法を用いたものを使用した。研究対象は 1 人から 400 人近くにまで及ぶ。比較群または対照群を用いて評価対象に介入があった研究は取り上げていない。ほとんどの調査は、認定された養育者の意見を探るために回顧的法を採用した。

主な調査結果

LGBT の里親は、すべての里親たちがそうであるように、リクルート、アセスメント、サポートやスーパービジョンを幅広く経験している。

しかし、今後認定される、または現在認定されている LGBT の里親は、2 つのダイナミクスを経験する。1 つは、里親養育支援機関、ソーシャルワーカー、里子や当事者の若者とその家族が、LGBT の里親のジェンダーやセクシュアリティにどう反応するかに関する、里親の自己認識である。もう 1 つは、フォスタリングエージェンシー、ソーシャルワーカー、里子や若者とその家族が、実際に里親のジェンダーやセクシュアリティにいかなる反応をするかである。

里親養育の質とソーシャルワーク実践に対する里親の認識は可変的で、効果的で「良い」実践は大抵個々の実践者に依存する。したがって、ソーシャルワーカー、里親、エージェンシーらは、ジェンダーやセクシュアリティとともに、自分たちが LGBT の人々の生活の中で果たす役割を自覚し、それら（セクシュアリティ等）に着目し過ぎることなく全体的アプローチの中に含めることが重要である。

このレビューに含まれる研究が示したのは、実践において進歩がみられるようになり、最近の調査では有益な実績や実践例が数多く実証されたことだ。しかし、長期的にみて明確に直線的な進歩がみられたわけではなく、異性愛規範にもとづくソーシャルワーク実践は最近の研究でも依然として見受けられた。

本レビューにおいて、効果的な LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンで特に重要なものと明らかにされているのは以下である：

- LGBT の里親のリクルートは、里親になることを考える本人が自身のセクシュアリティは里親になる際の障壁になるという前提によって、阻まれる可能性がある。
- LGBT の申込者は、そのリクルートメントに関して明確な方針があるエージェンシーによって支援される。
- LGBT の里親リクルートにおける地域的差異は、部分的には法律および政策的枠組みの違いによる。たとえば、南オーストラリアでは、LGBT の里親養育は公には承認されていない。
- ジェンダー役割とセクシュアリティに関するソーシャルワーカーの信条は、LGBT の人々が養親や里親になることについての考え方に影響を及ぼし、それに続くアセスメントプロセスにも影響がでる可能性がある。
- LGBT の里親のリクルート、アセスメントやサポートにおいて、フォスターリングエージェンシーが公営か私営かによる顕著な違いはなかった。だが、LGBT の里親たちは私営のエージェンシーの方が受け入れられやすいと感じている。
- スーパーバイズを担うソーシャルワーカー（以下、SSW）と里子のソーシャルワーカーによる LGBT の里親の支援とスーパービジョンの質は、子どもや若者のニーズを満たす養育者の能力に影響を及ぼす。
- 里親の家に子どもが到着する前に、子どもや若者が LGBT の里親の元へ行く準備をしておくことは、役に立つと考えられている。
- 他の里親たちと同様に LGBT の里親は、子どもたちが実親家族との交流を可能にするためのサポートを認識し、必要としている。また LGBT の里親は子どもの実親家族からの同性愛嫌悪を気にする可能性がある。

まとめれば、LGBT の里親との効果的なソーシャルワーク実践は、より一般的に行われる効果的なソーシャルワーク実践を密に反映しているのだ。しかし、エージェンシーと里親、ソーシャルワーカーは、現在も歴史的にみても、同性愛に対する嫌悪の感情による影響に気を配らなければならない。同時にエージェンシーと里親、ソーシャルワーカーらは、自分たちの実践が、現在継続している（冒頭で挙げたような）ダイナミクスを和らげるということを確かめる必要がある。里親養育の焦点は、子どもと若者が、温かく、回復できる安全な里親家庭に委託することであり、LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンはそれを目標とする必要がある。

政策と実践のための提言

研究のエビデンスにいくつかのギャップが見られたことから、提言はあくまでも一時的なものである。里親養育支援機関（fostering agency）に次のことを提言する：

- ・ 現在の知見において可能な限り効果的に、LGBT の里親のリクルート、アセスメント（委員会を含める）とスーパービジョンに関する政策と実践を構築・レビューすること。
- ・ LGBT の里親のリクルートについての既存の方針やアセスメントを常用し、アセスメントが異性愛規範的でないだけでなく、厳格で総体的かつ分析的で、セクシュアリティやジェンダーについて軽視するでも着目し過ぎるでもないということを確認すること。申請者のジェンダーやセクシュアリティはどのように里親養育に関連するか、どのエージェンシーのスーパービジョンと支援が助けになるかという申請者の検討を促進することが、アセスメントの不可欠な要件となる。
- ・ マッチングの決定が、異性愛規範の思い込みにとらわれず、里親がその子どものニーズに適しているかどうかを確認すること。
- ・ 里親養育の委員会のプロセスが、包括的で、個人またはカップルの適性を考慮したものであり、ジェンダーやセクシュアリティに関係なく里親としての認定を維持すること。つまり、今後の里親の役割に何がふさわしいかを熟慮すること。
- ・ LGBT の里親が SSW と里子のソーシャルワーカーから支援とスーパービジョンを受け、子どもや若者のケアを効果的にできることを確認すること。
- ・ LGBT の里親が LGBT の支援グループから援助を受けられるようにし、そうしたグループに関する情報を活用できるようにすること。エージェンシー独自の里親支援グループが開放的であり、結果として LGBT の里親が安心できるようにすること。
- ・ 里親の研修プログラムの内容とプロセス、構造を検証し、すべての里親が尊重され、価値を認められ、受け入れられていると感じられるものになっているか確認すること。
- ・ ソーシャルワーカーが、セクシュアリティやジェンダーに関係なくすべての里親と効果的に活動する自信とスキル、態度、知識を備えていると確認すること。
- ・ 常に里子や若者を中心として、里親養育の実践と決断をすること。

今後の調査研究への提案

このレビューにより、既存の知見にいくつかの課題があることが明らかになった。今後の研究を次のように行うことを提案したい：

- ・ バイセクシュアルとトランスジェンダーの里親養育を検証すること、里親支援機関、バイセクシュアルとトランスジェンダーの里親、ソーシャルワーカーの認識とリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンの実践に基づいて効果的な実践を見出すこと。
- ・ 全国、または州ごとに、LGBT の里親が現在住んでいる場所、これらを子どもと若者の委託にどのように利用できるか、また家庭の状況（例：兄弟姉妹、年長の子ども、特別なケアが必要な子どもなど）をマッピングすること。この情報は、関連する里親養育支援機関の、LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンに関する政策と一緒に検討される。このような調査結果により、LGBT の里親が特定の地域や特定の里親エージェンシーに集まっていないかどうか明らかになる（そのようになると言われている）。
- ・ 地理的に広がっている多くの里親エージェンシーの中で、LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンについての政策と実践を分析すること、LGBT の里親、審査にかかわる人（委員会を含む）、SSW、独立した審査官、医師や里子のソーシャルワーカーといったチームに対して、リクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンに関する認識と経験を収集するための調査を行うこと、LGBT の里親に効果的な実践をさらに知らせるための機会を検討できるような調査を実施すること。
- ・ LGBT の里親のケアを受けた子どもと若者、その家族の認識と経験を前面に出すこと。

主な報告

レビューの背景

政治的、社会的背景

従来、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアルとトランスジェンダー（LGBT）の人々について、ソーシャルワークや公的児童福祉制度（public care）にもとづく里親養育の領域は実践論争的な分野ではなかった。比較的最近まで、世界のほとんどの地域で、レズビアンおよびゲイ男性は、差別的法律の対象であり親としての適性を疑問視されてきたのだ。それゆえ、ソーシャルワークと里親養育実践の分野で、LGBT の人々の里親養育に関する議論はとくに行われるようになってきている。実際のところ、2014年10月には、79の国で同性愛は違法であったと推定される（Erasing 76 Crimes, 2014年）。世界の同性愛が合法的な場所でも、その受容の程度は非常に多様であり、受け入れ度合いの高さは豊かさと世俗主義の水準の高さに関連している（Pew Research Center, 2014年）。

相対的に比較的豊かな国の中でも、LGBT の人々の平等が達成されたのはこの10年ほどである。例えば英国では、結婚法2013（Marriage (Same Sex Couples) Act 2013）が可決した2013年まで、完全な実現はしなかった。LGBT の人々が平等である国では、差別的法律の撤廃と保護法の制定が、1960年代以来比

較的安定したペースで行われ、2000 年以降加速している。法律の改正の速度は、必ずしも人々の意識やソーシャルワーク実践の変化と連動しているわけではない。実際にソーシャルワークは、LGBT の人々の法的地位の急速な変化に追いつかなければならなかった。

法律を変えることは 1 つのことであり、ソーシャルワーカーの態度を変えることはまた別のことだ。レズビアンとゲイのライフスタイルへの受容が増している一方、エビデンスによれば、それで満足できるような場合とはいえない。なぜなら、エビデンスによると、ポジティブな法的変化にもかかわらず、同性愛嫌悪の態度や先入観、差別がいまだに存在するからだ。法律は、同性愛が倫理に反する悪いものだと思っている人々の意見を強制的に変えることはない。しかし、もっと寛容に、人として接するように要求することはできる。

(Brown and Kershaw, 2008, p120)

このように LGBT の人々の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンに関する法的、社会的そして政治的文脈を大きく変えることは、それらに関する研究結果を検討するにあたり、重要な関連性を持つ。法律、政治、実践の変化が意味することは、ある面調査結果がすぐに古くなってしまふことであり、また研究活動それ自体が LGBT の人々と子育ての間をいかにつなぐかそのあり方を変えていくのである。

LGBT のペアレンティングと養子縁組の調査

LGBT の人々とペアレンティングに関する研究は、1980 年代前半から実施され、次のように幅広く行われている：

- 1 つ目は、レズビアンの家庭で育った子どもと異性愛者の世帯主である家庭で育った子どもの社会的、教育的、心理学的、性的アウトカムを比較する研究である。(例：Golombok, Spencer and Rutter, 1983; Golombok and Tasker, 1996; Golombok, Perry, Burston, Murray, Mooney-Somers, Stevens and Golding, 2003; Patterson, 1992; Tasker and Golombok, 1991, 1995, 1997)。米国と英国におけるこの分野の研究は、レズビアンの親権をめぐる事柄がきっかけとなっている部分もある。
- 2 つ目は、養子縁組した家族を含むレズビアンとゲイの家庭の親と子どものアウトカムについて考察する研究 (American Psychological Association, 2005; Averett, Nalavany and Ryan, 2009; Brodzinsky, Green and Katuzny, 2012; Brodzinsky and Pertman, 2012; Crouch, Watters, McNair, Power and Davis, 2014; Farr, Forsell, Patterson, 2010; Farr and Patterson, 2013; Goldberg, 2010; Goldberg and Allen, 2013; Goldberg and Gianino, 2012; Goldberg, Gartrell and Gates, 2014; Jennings, Mellish, Tasker, Lamb and Golombok, 2014; Mellish, Jennings, Tasker, Lamb and Golombok, 2013; Patterson, 2005, 2006, 2009; Patterson and Riskind, 2010; Patterson and Wainright, 2012; Ryan and Brown, 2012; Ryan and Whitlock, 2008; Tasker, 2005; Tasker and Bellamy, 200; Tasker and Patterson, 2007) である。
- 3 つ目は、レズビアンとゲイの里親の経験に注目した研究 (Brown, Smalling, Groza and Ryan, 2009; Farr, Forsell and Patterson, 2010; Farr and Patterson, 2013b; Goldberg, 2012; Hicks and McDermott, 1999; Hill, 2013; Kinkler and Goldberg, 2011; Mathews and Cramer, 2006; Laverner, Waterman and Peplau, 2014; Mellish, Jennings, Tasker, Lamb and Golombok, 2013; Ross, Epstein, Anderson and Eady, 2009; Ryan and Brown, 2012; Ryan and Whitlock, 2008) である。

主に、研究活動のこれら 3 つの分野の中で注目されてきたのは、幅広い LGBT の人々を対象にしたというより、特にレズビアンとゲイのペアレンティングについての考察が多くを占めてきた。Ross et. al.

(2009)がトランスジェンダーとバイセクシュアルの里親に言及している程度である。

萌芽期の研究結果は、レズビアン¹の家庭にのみ着目していた。しかしその研究は、ゲイ²の家庭の子どもと親双方に対する調査研究でも多く取り上げられた (Goldberg, 2012; Golombok, Melish, Jennings, Casey, Lamb and Tasker, 2014; Mallon, 2004; Patterson, 2004, 2005; Tasker, 2005)。バイセクシュアルとトランスジェンダーの親と子どもの状況に注目した研究はまだ行われていない (Downing, 2013; Patterson and D'Augelli, 1998; Pyne, 2012; Ross and Dobinson, 2013; Tye, 2003)。

レズビアンとゲイの家庭に育ったことが子どものアウトカムにとってポジティブであったとする研究結果と、LGBTの養子縁組や里親養育の数が増加していることは関連していると単純に証拠づけるのは難しいと思われる。1980年代から、レズビアンとゲイの養親や里親に預けられる子どもの増加には多くの要素が影響しているが、そうした変数を使った研究は1件のみである (Brown and Cocker, 2008; Hicks, 2005a, 2007; Logan and Sellick, 2007, 2011; Ricketts and Achtenberg, 1989; Ross, Epstein, Anderson, Eady, 2009)。

しかし、レズビアンとゲイのペアレンティングに関する調査により、子どもたちが異性愛者の家庭で育つと同じように、子どものアウトカムが証明されたため、その研究は政策と実践に影響を及ぼし、例えば実際に英国では2002年養子縁組法 (Children Act 2002) の可決と2009年ニューサウスウェールズ州の養子縁組法の見直し前に、議会で議論されることとなった。研究結果により、子どもたちにとって大事なことは、親の性的指向や家族構成ではなく、家族の中での効果的な関係性の質であるということが立証された。Golombokは、レズビアンとゲイの家庭に育った子どもたちの成長に関する調査結果を考察し、次のように述べた:「家族の構成それ自体は、子どもたちの心理的適応に関して重要な決定要因ではない。家族がどのように構成されているかではなく、家族の中で何が起こるかがもっとも重要であると思われる」 (Golombok, 2000, p101)。特に、レズビアンとゲイ男性の養子縁組に注目すると、Farr and Pattersonは13年後、次のように同じ考えを表明している:

要約すると、レズビアンおよびゲイの養親とその子どもに関する調査は、この数年で著しく増えている。他の形の家族と同様に養子縁組家族においても、子どものアウトカムと全体的に家族がうまくいくために重要なのは、家族の構成よりも家族のプロセスである。 (2013b, p49)

間違いなく、家族構成や親の性的指向よりも、子どもと大人の関係性の質が子どもたちにとって重要であるという結果が再び示されたことは里親や養親としてレズビアンやゲイの人たちが多く採用されることに影響した。

新たな潜在層 (potential workforce) の可能性により、里親支援機関は、LGBTの里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンについて、最良の方法を知る必要がある。このレビューは、LGBTの里親養育に関する既存のエビデンスをまとめ、政策と実践、今後の調査への提案を作成する。

LGBTの人々のペアレンティングに関する既存の研究成果の中では、ほとんどの結果が実親家族の中に生まれた子どもと、養子となった子どもの成長に関連している。養子縁組と里親養育の間には類似点があるが、例えば、公的児童福祉制度 (public care) により里親家庭に委託されたほとんどの子どもには、顕著な違いもある。里親は大抵、さまざまな子どもたちをたびたび受け入れ、その子どもの養育と責任を親権者や公共機関と共有する。さらに、里親はしばしば、里親となった子どもと実親家族との定期的な交流のアレンジも担う。

推論的な (discursive) レポートと実践ガイド

1980年代以来、子どもとレズビアンやゲイの家族の様子に焦点を当てた研究結果の発表と並行して、目的（すなわち、LGBTのペアレンティングの調査）は同じであるものの、主に推論的であるという点で異なるさらに2つの発表が行われた。

2つの分野があるが、1つ目に、LGBTのペアレンティングが社会的、政治的に意味することの理論的研究である。この発表は、ポストモダンの枠組みに位置付けられ、Foucault and Judith Butlerのような理論家のアイデアを活用する (Hicks, 2005a, 2005b, 2006a, 2006b, 2008, 2009, 2011, 2013; Riggs, 2006, 2007, 2010)。この研究は、親族関係、家族、ジェンダーやセクシュアリティに関する考えの脱構築と創造的再考を促すために、LGBTの里親と養子縁組をのぞき窓として使用する。Hicks and Riggsは、エンピリカルなレポートや実践ガイド、実験に基づいた調査研究の結果の作成者としては類を見ない。

2つめは、養子縁組や里親養育をしようとする、または現在行っているLGBTの人とソーシャルワークのための実践ガイドとして幅広く説明する、実践を中心とした資料である。この後者の研究の中身は、主に、すでに認定された里親の支援やスーパービジョンよりも、養親や里親としてレズビアンとゲイ男性のアセスメントに焦点を当てている (Ariyakulkan and Mallon, 2012; Brown, 1991; Brown and Cocker, 2008年; Cocker and Brown, 2010; De Jong and Donnelly, 2015; Hicks, 2007; Skeats and Jabri, 1988; Mallon, 2006, 2007, 2011, 2012; Mallon and Betts, 2005, 2012; Riggs, 2011)

里親のリクルート

オーストラリア、カナダ、米国と英国では近年、里親が不足しているため、公的機関はLGBTの里親や養親のリクルートをもっと積極的に検討しなければならない。実際に、公的児童福祉制度 (public care) において、LGBTの人々を子どもたちの預け先として未開発の資源であるとはっきり述べている論文もある (Brodinsky, 2012; Brooks and Goldberg, 2001; Gates, Badgett, Macomber and Chambers, 2007; Mallon, 2006; Riggs, 2006; Ryan, 2000; Sudol, 2010)。さらに、LGBTの若者がLGBTの里親にもとでうまくいったケースがあるため、LGBTの預け先はニーズがあると論じる者もいて (Logan and Sellick, 2007; Polikoff, 1997)、当事者の若者たちの自己肯定感を高めることにつながっている。Polikoffは次のように示唆している：

レズビアンとゲイの若者と里親のもっとも明らかなつながりは、ゲイとレズビアンの里親が、受容と大人への成長の過程の支援を必要としているゲイのティーンエイジャーに家庭を提供しやすくすることの重要性である。

(1997, p1184)

里親養育や、養子縁組支援機関がLGBTの里親や養親をリクルートすることについては国や州、地域によって顕著な違いがある (Gates, Badgett, Macomber and Chambers, 2007; Riggs, 2013; Sudol, 2010)。里親養育とソーシャルワークが、その州ごとに特有の法的または政策枠組みに依拠して行われているため、それぞれの州の状況は異なっている。

LGBTのコミュニティ組織といくつかの州の組織は、LGBTの親や養親・里親を希望する者に向けて、養子縁組や里親養育が自分に適しているかを検討し、エージェンシーに連絡したりアセスメントを受けたりする際に必要なことを知るのに役立つ、独自の資料を作り上げた (Stonewall, 2010; New Family Social, 2014; U.S. Department of Health and Human Services, 2014)。

里親申請者のアセスメント

レズビアンとゲイの里親申請者のアセスメントに関する実践ガイドで主に述べられていることは、彼ら／彼女らが異性愛者の申請者と同一のアセスメントを受けるべきかどうか、すべての里親申請者が対象となるアセスメントの内容に加えて、特別な範囲を考慮すべきかどうかということである (Brown, 1991; Brown and Cocker, 2008; Cocker and Brown, 2010; De Jong and Donnelly, 2015; Hicks, 2007; Mallon, 2006, 2007, 2011, 2012; Mallon and Betts, 2005)。英国英国の Hicks (1996, 2000, 2006b) や Hill (2009)、米国の Mallon (2006, 2007)、Goldberg (2010) 他、オーストラリアの Riggs (2006, 2007)、Riggs and Augoustinos (2009) といった人々の研究を通じて、養親や里親候補の LGBT の人々とのソーシャルワーク実践のなかには、異性愛規範、異性愛者であることの前提、時には同性愛嫌悪に満ちたものであったことが明らかになっている。このことは、アセスメントの過程で、ジェンダーやセクシュアリティ、性的指向に必要以上に注目するか、あるいはまったく無視するかのどちらかにつながると報告の中で明らかにされる。これらの発表の多くで取り上げられている議論は、LGBT の申請者が、すべての里親申請者と同様に厳格に審査されるべきだということである。そして LGBT の里親候補者は、LGBT であることが里親としての彼ら彼女らに及ぼし得る影響に関する領域について検討する手助けになるということである。

推論的な実践ガイドの文献では、レズビアンとゲイの里親申請者へのアセスメントモデルが示された (Brown, 1991; Cocker and Brown, 2010; De Jong and Donnelly, 2015; Hicks, 2007; Mallon, 2006, 2007, 2011, 2012; Mallon and Betts, 2005)。これらのモデルのいくつかは、里親や養親の申請者のアセスメントに関する、より一般的なテキストに取り入れられた (Beesley, 2010)。

個人の LGBT の里親申請者の適性を評価する Cocker と Brown のモデルは、後の実践ガイドに組み込まれた (De Jong and Donnelly, 2015)。彼らのモデルの頭文字をとって、SPRINT が意味するのは以下の通りである：

S 性的指向

P 過去の性的関係

R (現在の) パートナー関係

I 親密性 (パートナー双方の認識)

I コミュニティへの統合

N 不都合な状況のときの対処：表面を掘り下げる、長期的な関係性を探求すること、困難やストレス・不一致などに対処すること

T 思考：物語の中にあるパターンと物語間のギャップについて・・・

SPRINT は、性的指向に関係なく、具体的に性的指向に対処するような要素を含んでいる場合にも、すべての里親候補者に適用できる。モデルは審査する者に対し、資料をまとめられるよう申請者が話した内容を解析することを求める。それにより、情報に基づく再帰的アセスメントに到達する。(Cocker and Brown, 2010, p26)

Cocker と Brown は、SPRINT が特定のエージェンシーが採用する養育者候補のアセスメントの一般的なモデルの中に位置づけられるべきで、それゆえジェンダーやセクシュアリティに関係なく、すべての申請者に行われるアセスメントに置き換わるというよりは補完するということ論じる。

里親の支援とスーパービジョン

上記で述べたように、推論的実践ガイドの大部分の目的は、里親申請者のアセスメントに関することである。すでに認定された里親の支援についてはあまり書かれておらず、実際、LGBT の里親のスーパービジョンについては別段何も書かれていない。例外は、Wakefield Inquiry (ウェイクフィールド調査) で、これは英国で2人のゲイの里親による男児の性的虐待の状況を検証した公的調査の報告である (Parrot, McIver and Thoburn, 2007)。この調査報告は実際、彼らのアセスメント、委託、サポート、スーパービジョンと里親の審査による、ゲイ男性の養育カップルの詳細なケーススタディである。このように、稀に子どもたちの里親養育が非常に悪いという例がある一方、別の調査結果をもとにした考察は、里親養育とソーシャルワーク実践についての詳細が分かることで、ソーシャルワーク、里親養育の実践と研究にとって有益な情報となる。しかし、ウェイクフィールド調査は、ゲイ男性は里子を虐待する潜在的な可能性があり、里親として認定すべきでないというエビデンスとして一部のメディアに悪用された。これは、調査チームと事件にあたった刑事裁判の判事から厳正に対応され議論された。CF と IW の裁判の間、一般の人々と政界、メディアの関心は、彼らがゲイであり、ウェイクフィールド議会が同性の養育者として承認したという点に集まった。多くのメディアの関心はこれらの事実に向けられ、英国でゲイ (とレズビアン) の里親や養親により提供される全国的に質の高いケアによって、傷つきやすい子どもたちに、委託開始時点で期待されていた以上により良い生活が用意されたという事実は、ほとんど注目されなかった。Cahill 判事は実際、CF と IW に次のように言い渡した：「この事例はもちろん、同性愛それ自体についてではなく、背任違反に関することからであることを強調する」。要約すると、判事が述べたのは次のようなものであった：「もちろん彼らが同性愛者であるという事実のせいで、このような違反行為を行う可能性が高いとも低いとも言えない」。

(Parrot et al., 2007, p7)

この資料の中で繰り返し取り上げるテーマは、LGBT の養育者や里親が支援され、価値を認められ、信頼されること、あずかる子どものケアに関する方針を持っているソーシャルワーカーやエージェンシーと効果的な関係が重要であることである (Brooks, Kim and Wind, 2012; Goldberg, 2013; Laverner, Waterman and Peplau, 2014; Mallon, 2006, Riggs, 2011)。このことはもちろん、関係がうまくいっている場合には、SSW との関係の質を重要視するすべての里親養育者の事例と違いはない (Brown, Sebba and Luke, 2014)。しかし、LGBT の里親が違ふとすれば、彼らのソーシャルワーカーや里子のソーシャルワーカー、里子の実親家族、エージェンシー、彼らと子どもと関わる専門家たち、また実際にエージェンシーの支援やトレーニングの中で出会う他の里親たちなどの同性愛嫌悪や異性愛主義が挙がる。

養親と里親の支援はさまざまな形態をとり、それは里親養育支援機関や養子縁組支援機関によるものだけではない。カナダの The LGBTQ Parenting Network (LGBTQ ペアレンティングネットワーク) や英国の New Family Social (ニュー・ファミリー・ソーシャル) といった組織によるコミュニティ支援は、養親への支援だけでなく、LGBT の里親が他の LGBT の里親と会う機会を提供するという役割を担っている。LGBT の里親たちは自分たちのエージェンシーの中では大抵少数派であるため、このことは重要である。

Austerberry, Stanley, Larkins, Ridley, Farrelly, Manthorpe and Hussein (2013) は、里親たちが里子とその実親家族とうまくやっていけるよう効果的な支援を受けることの重要性を記している。里親は子どもの実親家族との交流にストレスを感じる可能性がある。LGBT の里親の中には、子どもの実親家族が同性愛嫌悪を示すかについて、さらなる懸念をってしまう人もいる (Patrick and Palladino, 2009; Hicks and McDermott, 1999; Hill, 2013)。

このレビューの背景セクションで言及している研究や資料は、レビューの質問の内容を具体的に設定するために一般的な LGBT のペアレンティングと LGBT の里親養育、養子縁組を網羅している。この文献レビューは、LGBT 里親養育と特に結果のセクションで取り上げている LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンに関することである。

目的と範囲

本国際研究レビューは、LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンというトピックを取り扱っている。次のような問題が考察されている：

- LGBT の里親への効果的なリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンについて明らかになっていることは？
- LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンの質を向上させるために、フオスターリングサービスができることは何か？

方法論

このレビューは LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンに関する国際的な知見をまとめたものである。ASSIA、Australian Education Index、British Education Index、Campbell and Cochrane Libraries、Conference Proceedings Citation Index、ERIC、International Bibliography of Social Sciences、Medline、PsycInfo、SCOPUS、Social Care Online、Social Policy and Practice および Social Services Abstracts を含む数多くの電子データベースを検索した。

次のウェブサイトを検索した：Albert Kennedy Trust、British Association of Adoption and Fostering、Centre for Excellence and Outcomes in Children and Young People’s Services、Campbell、Casey Family Programs、Chapin Hall、Community Care Inform、Department for Education、Evidence for Policy and Practice Information and Co-ordinating Centre、Joanna Briggs Institute、LGBTQ Parenting Network、National Children’s Bureau、New Family Social、National Foundation for Educational Research、National Society for the Prevention of Cruelty to Children、Office of Planning、Research and Evaluation in Administration for Children and Families (USA)、Social Care Institute for Excellence、Stonewall、The Fostering Network、U.S. Department of Health and Human Services、What Works Clearinghouse。

検索した用語：

“foster care*” または “foster parent*” あるいは “foster family*” もしくは “substitute family*” または “family foster home” あるいは “out-of-home care” もしくは “out of home care” または “looked after” あるいは “looked-after” もしくは “alternative care” または “adopt*”

同時に

LGB* または lesbian* あるいは gay* もしくは bisexual* または transgender* あるいは homosexual* もしくは sexuality または “same sex” あるいは “same-sex” もしくは “same gender” または “same-gender” あるいは “queer”

電子検索により特定された出版物のタイトルと要旨はその後関連性を精査する。最後に、里親養育に関する国際的な専門家に、電子検索で出てこなかった参考文献が何かあるか問い合わせた。このレビューは、推論的資料が背景と内容、考察に示唆を提供してくれるものの、経験的な研究に限定した、特定の方法論に基づくことはなく、(ジャーナル審査基準により選ばれた方法で判定する) 最低基準の質に達する研究のみがレビューに含まれるよう、質的な閾値を適用した。

レビュー論文の概要

このレビューで認められた 20 の研究の文献 (19 の関連調査研究) はすべて英語で記述され、1996 年以降に発表されたものである。研究は以下の国で実施されたが、いくつかの知見において制度的な相違により比較が難しいものもあった：

オーストラリア	4
米国	8
英国	8

研究は定性的と定量的両方の手法を含んでいる。研究の詳細は付録 A の表 1 にて確認できる。

主な研究結果

はじめに

研究結果は、研究課題であるリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンの 3 つの分野に整理した。前述したように、LGBT のペアレンティングに関する研究は主に、養育者の経験だけでなく、実子・養子と実親のアウトカムが優勢であり、幅広い LGBT の人々というよりはレズビアンとゲイ男性に焦点を当てている。特に LGBT の里親養育に関する研究は少ない。このレビューでは里親養育に注目する選択をしたが、養子縁組が含まれる場合もある。里親養育と養子縁組の両方が報告に含まれるのは、多くの調査研究と報告書等が里親養育だけに焦点を当てるといふより養子縁組を含んでいるためである。ソーシャルワーカーの態度を明らかにしていたことから、養子縁組だけをあつかった報告書 (Hall, 2010) を 1 つ含めた。

論文や報告書等は主に、個別の事例研究である 2 つを除き、調査研究の結果を引用している (Patrick, 2006; Parrot et al., 2007)。Hill (2013) と Hicks and McDermott (1999) は、どちらも英国の文献で、ケーススタディを効果的に収集しており、1999 年と 2013 年における養育者の経験と認識の間の有益な対比を示している。14 年間という間には、英国で LGBT の里親養育と養子縁組に関する法政策と実践の著しい変化が見られた。

このレビューで選んだ論文や報告書等は、ソーシャルワークと LGBT の養育者による里親養育の実践における急速な変化という状況下で、それぞれの書かれた時期と場所を反映している。例えば、Hicks の研究 (1996 年) は、後に発表されたものといくぶんか異なっている。その大きな違いの 1 つは、調査研究の位置づけという点で、子どもにとっての永続性 (permanency) に関する米国、英国、オーストラリアでの政策および実践の違いに関連している。LGBT のペアレンティングに関して米国と英国で行われた研究の大半は、実親家族と養子縁組の両方で LGBT の家庭に永続的に属する子どもに焦点を当てている (Riggs, Delfabbro and Augoustinos, 2010)。一方、公的児童福祉制度 (public care) における子どもの永続性の選択肢として大抵里親養育が選択されるオーストラリアでは、そうした事例はそれほど多くない。

Riggs は次のように述べている：

米国や英国と異なり、オーストラリアで両親から離された子どもたちは、養子縁組されることはあまりなく、代わりに世話をする里親家庭に（長期の受け入れが認められた場合）委託解除年齢に達するまで預けられることが多い（Riggs, 2011, p217）。

里親養育と養子縁組を合わせた調査ではなく LGBT の里親養育に特化した研究のほとんどがオーストラリアで積み重ねられたという事実は、ある程度この文脈に当てはまる。例外は、Patrick (2006) と Patrick and Palladino (2009) が米国で行った LGBT の里親養育に関するものである。

研究や報告書等の多くが LGBT の里親養育の認識と経験、ソーシャルワーカー（成人）の見方に注目しているが、多くの場合中心的関心は、里子（と養子）と若者にあることは明らかである。里親のリクルート、アセスメント、支援とスーパービジョンは、子ども中心の活動でなくてはならない。里親養育は、里子と若者のニーズに応え、その人生の可能性を広げるために存在する。それゆえ、この文献レビューで子どもと若者の存在を前に推し進めるために、彼らの声に耳を傾けることから始めることが重要なのである。

子どもたちと若者の声

LGBT の里親に預けられた子どもと若年者の声に特化した研究は今のところないが、一般にレズビアンとゲイの家庭に育った若者の声を集めたものはある（Saffron, 1996）。Mellish et. al. は 2013 年の研究で、異性愛者の家庭と、レズビアンとゲイの家庭で養子として育った子どもたちの声を取り上げた。里親に養育された子どもと若者の声が含まれていないため、LGBT の家庭で育った子どもと若者の見解に関する、より一般的な研究結果と、里子たちの声が明確に反映されている他の研究から選択した資料も参照している。Guasp (2010) の研究は、子どもと若者の意見をポジティブなものやネガティブなもの双方を述べているが、子どもと若者は概して次のように考えていた：「学校の友だちなど、ほとんどの人は、子どもの親がゲイであるということは良いと思っている。みんな、良いと思っているか、または気にしていないかだね」。(2010, p3)。

子どもと若者がレズビアンとゲイの家族についてどう思うか尋ねられたとき、彼らが言ったことを Guasp は次のように要約している：

- ・ゲイの両親を持つ子どもたちの多くは、自分の家族を特別で違っていると思っている。なぜなら、自分の家族を他人の家族よりも当たり前のものだと思う人もいるけれども、すべての家族は特別で違っているからだ。
- ・レズビアンとゲイの親を持つと、自分の家族は少し違っていると感じる子どももいる。しかしそれは称賛すべきことで、心配することではない。
- ・他の子どもたちは、ゲイの親を持つ子どもが他の家族と比べてあまり普通ではないと認識しているが、このことは、だからといって自分の家族が他の家族と違うという意味ではないと思う。
- ・とても小さい子どもは自分の家族を他の家族と違うとはまったく思わない。
(2010, p3)

6歳のJamieが、ゲイの父親との関係を想像して言ったことは、将来を見据えたときに、自分の養育者のセクシュアリティやジェンダーとは別に、考えるべきより差し迫った問題がもっとあるということを出し知らせる。彼は次のように言っている：「2人は僕の家に来て、家のペンキ塗りをして、子どもたちの面倒をみてくれる」(Hill, 2013, p135)。

リクルート

動機

個人とカップルが里親になる動機はリクルートにも影響を与え、実に幅があるものだ (Mcdermid, Holmes, Kirton, Signoretta, 2012; Peake and Townsend, 2012; Sebba, 2012)。このことは、LGBTの養親と里親においても同じだ (Jennings et al., 2014; Mallon, 2004; Shernoff, 1996)。しかし、このレビューでは、里親になる動機と里親や養親になりたい人の特徴に関する、LGBTの人々のいくつかの違いに着目している。

多くのLGBTの里親と養親の候補にとって養子縁組や里親養育は、彼らが関与し、子どもに責任を負って世話をし育てていくという最初の選択肢である。他の里親たちと違い、多くの人が初めて親になろうとするのである。LGBTの人々を潜在的な養親や里親としてリクルートすることに関する肯定的要素として見直されるというよりも、エージェンシーやソーシャルワーカーにより問題にされることもある (Hicks, 2000; Hicks and McDermott, 1999; Hill, 2013; Riggs and Augoustinos, 2009)。里親や養親になりたいという申請者の熱意は、そのセクシュアリティが障壁になるのではという彼ら/彼女ら自身の思い込みにより一定程度うまくいかないことがある (Riggs, 2011)。New Family Socialの調査(2014年)では、対象者の36%が、LGBTであることは養親や里親になるには障害になると思っていた。

特徴については、Gates et al. (2007)の研究で、LGBTの里親は概して、異性愛者のそれよりも高い教育水準であると明らかにした。同様の知見はHill (2013)と、Hicks and McDermott (1999)が収集したケーススタディからもわかっており、多くの里親と養親が教育業界や福祉業界に従事していたという。

地理的差異と州による差異

LGBTの里親と養親のリクルートにおいては、州による関心の程度の違いに言及した論文の中で、顕著な違いが明らかになっている (Gates et al., 2007; Riggs, 2013; Riggs and Augoustinos, 2009)。この関心の差は、ある事例で法律と政策の枠組みの違いを反映しているが、それだけではない。例えばオーストラリアでは、南オーストラリアとヴィクトリアには、ニューサウスウェールズと異なり、LGBTの里親の積極的なリクルートに関する明確な政府の政策がなかった (Riggs, 2013)。

エージェンシーの姿勢

里親養育と養子縁組のエージェンシーは、時にはLGBTの里親養育と養子縁組に対するメディアの好奇の目をかわさなければならない。Hicks and McDermottは次のように記している：

ソーシャルワークのエージェンシーがレズビアンとゲイの里親の問題に慎重になる理由の1つは、メディアにさらされる脅威が常にあるということであり、ソーシャルワーカーは、良い記事を欲しがらる報道機関から里親たちを「さらし者にされる」かもしれない。

(1999, p174)

これより 10 年早く Ricketts and Achtenberg (1989) は、エージェンシーにとっての報道にさらされる脅威の影響を記している。1989 年と 1999 年以降、世界の多くの部分は変化しているが、メディアの幽霊 (ghost of the media) は里親養育と養子縁組のエージェンシーにとってつきまとう問題である。

ソーシャルワーク団体の政策と姿勢の変化は、以下の研究から明らかである。レズビアンとゲイの里親申請者は、エージェンシーによっては養育者として歓迎されない場合もある (Hicks, 1996; Hicks and McDermott, 1999; Patrick, 2006; Ryan, Pearlmutter and Groza, 2004)。より最近では、Riggs and Augoustinos (2009) は、オーストラリアのいくつかの州の里親制度で公的には LGBT の里親養育が支援されていないため、里親になろうとする人が自分は歓迎されないのではと思い込んでいる可能性があることを示した。一方、同研究の中で、里親養育のサービスで良い経験をした里親たちがいるということも分かった。彼らは以下のことを発見した：

・・・レズビアンとゲイの里親を支援したり、またレズビアンとゲイの里親に関する問題が起こった時のメディアに対処したりするための里親養育支援機関が作るガイドラインは不十分である。したがって、オーストラリアのソーシャルワーカーは、レズビアンとゲイの里親に対してよりリベラルな対応を取ることが求められる一方、このような里親たちは、レズビアンとゲイの親一般に対して抱かれるネガティブなイメージによる影響を受け続けている。(2009, p78)

Riggs (2013) は、里親養育支援機関が、レズビアンとゲイの里親に対する明確でわかりやすい立場を世間に対して示すべきだと言っている。英国の多くの里親養育支援機関は現在、里親養育の平等性の方針を明確にし (2010 年平等法 (Equality Act 2010) に準拠)、さらに LGBT の申請者を明確に歓迎している。

一般的にみて、公営と私営、独立型のエージェンシーによる LGBT の里親に対する姿勢の間に、違いは報告されていない (Brown, 2011)。しかし、公的なエージェンシーで里親をしている LGBT の里親の中には、私営／独立型の里親養育支援機関の方が LGBT の里親を歓迎し支援してくれると考える人もいる (Downs and James, 2006)。

認識されたレズビアンとゲイの養育者のストレングス

2 つの研究においてソーシャルワーカーは、ある LGBT 里親の特有のストレングスに気付いた。Brooks と Goldberg は次のようにまとめた；「精神的な安定性、感受性、高度な教育達成、財政的な保証、強固な支援システム、および機知に富んでいること」(2001, p153)。他の研究では、ソーシャルワーカーは、LGBT の里親の疎外と差別の経験によって、里親になることへの挑戦を考慮し、レジリエンスを作り上げるといういずれもが里親としての能力 (capability) に加わっているのかもしれないという。一人のソーシャルワーカーがこの点を明確に述べた。

あなたが求めているのは、レジリエンスと、歴史により表面化した特定の問題や里親養育が投げつけられるさまざまな問題に対処する能力である。というのも、ゲイカップルの場合、彼らの人生で対処しなければならなかったような課題を見つけやすく、それを養育やあずかる子どもに関連づけやすいと思うからです。一方従来型の夫婦の場合、問題を見つけるのに苦労することもある。(Brown, 2011, p118)

公的児童福祉制度によるケア (public care) のもとにいる子どもが経験するスティグマと多くの LGBT が経験するスティグマとのつながりは、子どもたちの自己肯定感を育むために良い方に作用する可能性がある。それというのも LGBT の里親が、他者や社会との関係において自信をもち、前向きに関わっていくやり方をモデルとすることができるからである (Patrick and Palladino, 2009; Ross et al., 2009)。

アセスメント

ソーシャルワーカーの姿勢

里親申請者とその家庭のアセスメントの中心となる要素は、米国ではしばしば「家庭調査」(the home study)と言われ、英国では「アセスメント」と言われている。New Family Social (2014年)のサーベイ調査では、LGBTの回答者のうち35%が、もし自分たちがLGBTでなかったら、アセスメントはもっと容易であったらと思うことが判明した。アセスメント/家庭調査は、たいてい1人の人物によって行われるため、その人の信条や態度がLGBTの里親のアセスメントに影響する。LGBTの里親に関する研究は、彼ら/彼女らが異性愛規範や同性愛嫌悪を示すソーシャルワーカーのもつ前提を経験したというエビデンスを示している。例えば、レズビアンとゲイのパートナーが家庭内で担う役割を固定的にとらえている審査者の場合には、レズビアンの人たちは自分たちの社会的ネットワークにおける男性の存在を証明しなければならず、里子にとっての男性のロールモデルについて議論しなければならない。実際、これらの事項はすべての里親のアセスメントに関係するが、関係者らがもし里親申請者が異性愛者のカップルや独身であったら、このような厳しさはなかったらと思うのは明白であった(Hicks, 1996; Hicks and McDermott, 1999; New Family Social, 2014; Patrick and Palladino, 2009; Riggs and Augoustinos, 2009)。しかし、これらの研究の中には、LGBTの里親が審査者と良好な関係を持ったという例もあった。

こうした結果は、レズビアンとゲイの回答者が報告した養子縁組のアセスメント経験にもとづくさまざまな声と一致している(Mellish et al., 2013)。Hicksによると、レズビアンの里親のアセスメントに関するソーシャルワーカーの会話では、ジェンダーやセクシュアリティに関する考えと、ネガティブ・ポジティブ双方の固定観念に関する考えが混じりあって一緒に生じることを明らかにした。彼は次のように記述している：レズビアンの申請者は、少なくとも、異性愛規範者的な「良い養育者」の期待に沿うよう求められ、最悪の場合、「あまりにも急進的で、あまりにも政治的で、挑戦的で、実際レズビアンすぎる(too lesbian)」として拒絶された(Hicks, 2000, p165)。ソーシャルワーカーのジェンダー役割についての信条と、養親や里親になろうとするLGBTの人に対する態度の関係については、多くの研究で示されている(Jayarathne, Faller, Ortega and Vanderbvort, 2008; Spivey, 2006)。

分析の中で判明したのは・・・信条や態度と性役割との間に直接的な関連が存在するという仮説を支持した。性役割への考えがより平等主義的な人や慣習にとらわれない人は、ゲイとレズビアンカップルによる養子縁組に対してより好意的である。(Spivey, 2006, p48)

エージェンシーの試みの中には、「ゲイとレズビアンに親身な」(gay and lesbian friendly)ソーシャルワーカーがLGBTの里親申請者を審査することにより、スティグマ等を緩和しようとするものもある(Brooks and Gldberg, 2001)。LGBTの人のアセスメントの過程におけるポジティブな経験は大抵、「レズビアンとゲイの人たちに対応するスキルを学びながらも、セクシュアリティを過度に重視し過ぎない」というエージェンシーの体系的なやり方ではなく、「個人のソーシャルワーカーの善意」によるものである(Riggs, 2011, p225)。しかしLGBTの養育者候補のアセスメントに関する別の研究では、養子縁組のケースワーカーは、性的指向に関わらずほとんどの養父母に当てはまる要素を優先させたと記述している(Hall, 2010, p277)。

このようにみえてくると、LGBTの養育者のアセスメントの質においてばらつきが多いように見える。ソーシャルワーカーのジェンダーやセクシュアリティに対する問題含みの信条と態度に直面することに加えて、LGBTの申請者の中には、レズビアンとゲイの諸課題とレズビアンとゲイの生活に関して、ソーシャルワーカーを「教育」しなければならない立場に置かれていると感じる人もいる(Hicks, 1996, p18)。

数多くの研究報告等の著者は、LGBT の里親申請者のアセスメントにおける経験が変化に富んでいることを、社会福祉教育の質とその内容の問題およびトレーニングと結び付けた。論点は、社会福祉教育を、ジェンダーや性的指向に関係なく、里親養育の申請者への効果的なアセスメントを可能にするようにしなければならないということである (Dugmore and Cocker, 2008; Goldberg, Moyer, Kinkler and Richardson, 2012; Hall, 2010; Parrot et al., 2007)。

ソーシャルワーカーの態度や信条に加えて、LGBT の申請者の自分自身に対する認識も同じくらい重要である。なぜなら、それらはリクルートとアセスメントの双方の過程に影響するからであり、里親支援機関とソーシャルワーカーもそのことを心に留めておかなければならない。

*LGBT であることはアセスメントの過程がより難しくなることを意味し、子どもを預かるためにより高い条件を求められる可能性がある。実際にこの経験をした養親と里親の割合は低いものの、ネガティブな期待には真の理由があるということ*を反映している。

(New Family Social, 2014)

同じアセスメントか、違うアセスメントか？

LGBT の里親申請者のアセスメントが、異性愛者の里親が受けるものと同じであるべきかどうかに関する議論は、数十年間先行研究の中でははっきりとしていた。レビューした研究からみえた共通認識は、アセスメントとは、利用可能で厳正で、分析的で、全里親を考慮したすべての項目を網羅していなければならないということだった。しかしさらに、LGBT の申請者に対応するソーシャルワークの審査者は、里親になろうとする人のジェンダーやセクシュアリティに関する分野について深く思考するべきである。英国の Wakefield Inquiry (ウェイクフィールド調査) は、対象となった多くのソーシャルワーカーから、ある不安要素を特定した。それは、ある一組のゲイカップルに対応する中で、同性愛嫌悪だとして責められる可能性である。そして、そのゲイカップルに対して実施されたアセスメントが十分な厳正さと分析を欠いていた。その里親はやがて、あずかる男の子を虐待するようになった (Parrot et al., 2007)。アセスメントは総体的であるべきで、ジェンダーやセクシュアリティに過剰に注目することも無視することもしてはならない。このこととの関連で、LGBT の養育者のアセスメントの質は時代に応じて変化していく可能性があるソーシャルワーカーから述べられた：

私が思う変化とは、私たちがレズビアンとゲイのアセスメントに対してより確信をもてるということです。いわんとするところは、私たちはどんな養育者であっても課題について同じように対処することについて、もっと自信を持つべきだということです。私たちは、差別していると言われることを恐れていません。私たちは、(アセスメントの過程で) なぜ質問をするのか、説明することに自信を持っているのです。 (Brown, 2011, p117)

ある研究によれば、多くのソーシャルワークにおける審査者は、LGBT の人がいかにして差別に対処するかとその後のレジリエンスが発達するかどうかを関連づけている。そしてそれは未来の里親のアセスメントプロセスにも活きるとする。同研究の中で、アセスメントに追加の分野が必要だと考えるソーシャルワーカーは次のように述べた：

何か異なりうる点とは、彼らがコミュニティの中で里親を始める時に遭遇するであろう差別や、私たちがかれらをどのように支援していくかだけでなくかれらがどうしたら実際にうまく対処できるようになるか、話し合っておくべきであると思う。なぜなら、かれらにレジリエンスがなければ養育をしていけないからである。 (Brown, 2011, p117)

ジェンダー役割

LGBT の里親のアセスメントに関する声を集めた研究は、ソーシャルワーカーが調査した里親申請者に対する、ジェンダーの役割についての2つの観点を示唆した。1つ目は、ある審査者はジェンダー役割の異性愛規範的考えに取りつかれていて、たとえば2人のうちどちらが家事をするのかといった質問を重視する。だが、このような質問は通常、異性愛者の申請者に対してはなされない (Hicks, 1996, 2000; Hicks and McDermott, 1999)。将来の里親家庭の日々の役割分担を理解することは、すべての里親のアセスメントに当てはまる。アセスメントの一部としては、これは確かに聞き取っていくには繊細な部分であるが、しかし同研究は、LGBT の申請者がこの件について、異性愛者の申請者が対象となる場合よりも細かく調べられるということを証明している。2つ目は、ソーシャルワークにおける審査者のなかには、子どもが自身の男性らしさと女性らしさを発達させるために、家庭の中に男性と女性が両方いるという経験が必要であるとする者もいるが、それは研究の知見とそぐわない信条である。

子どものジェンダー

里子は男の子が良いか女の子が良いか、里親の選好を調べるソーシャルワークの審査は、すべての里親アセスメントで通常行われる部分である。しかし、Hicks は、里子候補のジェンダーに関する調査対象者の選好は、審査者によって問題となったことを発見した (1996, 2000)。例えば、ゲイ男性が女の子を育てることはできないという信念を示すなどである。若いLGBTの人々が養育に興味を表すことは、悪意ある目的があるかのように、「不適切」 (Riggs and Augoustinos, 2009) であると見なされるケースもあった。

カップルの関係のアセスメント

Wakefield Inquiry (ウェイクフィールド調査) では、ゲイカップルの里親の関係性は、十分調査されなかったというエビデンスが見受けられた。それはつまり、ソーシャルワークの審査者は、彼らがゲイであることを理由に、その関係を深く調査することについて不安を感じたのだ (Parrot et al., 2007)。

里親になろうと申請するレズビアンとゲイのカップルのセクシュアリティは、申込先のエージェンシーとその審査者にとっては自明のことである。それは、トランスジェンダーやバイセクシャルのカップル、単身の申請者には当てはまらない。かつて申請者がLGBTであるために里親申請者となること拒絶された (Hicks and McDermott, 1999; Patrick, 2006) ことから、申請者は自身のセクシュアリティを隠すことを求められようだろう。しかし、Hicks and McDermott (1999) と Hill (2013) のケーススタディでは、セクシュアリティを隠すというのは必ずしもあてはまらない場合もある。審査者や委員会、そして承認されたらすべての人々に対して、「何度も何度も」レズビアンやゲイであることを表明する (come out) 必要性に迫られる緊張感は、同研究の中で示されている (Hicks, 1996; Hicks and McDermott, 1999)。カップルが異性愛者であるというエージェンシーの思い込みは、LGBT の申請者にとって困難を引き起こし得る (Patrick, 2006)。

委員会

英国では、里親養育と養子縁組アセスメントの報告書が検証のために委員会に提出される。委員会のプロセスは多くの研究等の中で言及される (Brown, 2011; Hicks, 2000; Hicks and McDermott, 1999)。Hicks (2000) と Hicks and McDermott (1999) は、申請者の委員会面談 (panel meetings) での経験が、異性愛規範の思い込みのため、委員らが信じるジェンダー役割に関する、異性愛の申請者には尋ねない質問をされるなど、上述のアセスメントプロセスと同様であることを明らかにした。

支援とスーパービジョン

エージェンシーが LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンのアプローチについて方針をもつことの重要性は、数多くの研究の中で述べられる。Riggs の論文では、「(LGBT の里親の) 支援の経験と、レズビアンとゲイの里親を支援することを目的とした方針や実践があるかないか」の間の関連性を論じている (2013, p104)。

スーパーバイズを担うソーシャルワーカー (SSW) /リンクワーカー (link worker) /里親のソーシャルワーカーの役割

LGBT の里親とその担当となる SSW の関係の質と効果は、国際的にも何度も報告されているように、LGBT の里親それぞれによって経験に違いがある。より最近の知見では、LGBT の里親が、SSW から受けた支援の質が素晴らしいと感じたという例がある。Hill によるレズビアンの里親のコメントの 1 つは次のようなものである：「ソーシャルワーカーの皆さんと一緒に、まるで大きな、拡大家族の一員であるかのようです。たくさんの支援を受けています」(2013, p65)。また Goldberg et. al. は同様の結果を報告した：

ある人は、素晴らしいサポートとアドバイスを提供してくれ、ポジティブな影響を及ぼしてくれたソーシャルワーカーのおかげで、お世辞にも良いとはいえないシステムに対処する際の苦痛を相殺してくれたと説明した・・・そのソーシャルワーカーについて、「素晴らしい」や「すごい」といった言葉を使って賛辞の言葉を表現している。(2012, p305)

こうしたポジティブな結果は、オーストラリアにおいて調査対象となった里親のかなりの割合が「自身が受けたサポートについて良いとは言えない」「エージェンシーのソーシャルワーカーによる支援は頼りになると考える人が比較的少ない」という報告結果によりいくらか抑えられている (Riggs, 2013, p103)。LGBT の里親がエージェンシーから受けたサポートとスーパービジョンの質に関するこのようなさまざまな見解は、ほとんどの場合、里親一般のそれに対する見解の相違と同様である (Brown, Sebba and Luke, 2014)。

マッチング

多くの研究は、子どもと若者を LGBT の里親に預けることに関するエージェンシーのガイダンス不足の問題について言及する (Brooks and Goldberg, 2001; Gate et al., 2007; Goldberg et al., 2012)。米国の養子縁組の措置に関する研究で示されたのと同様に、子どものソーシャルワーカーが LGBT の里親に預けることをためらうというケースもある (Brooks and Goldberg, 2001; Hicks, 1996; Hicks and McDermott, 1999)。

1980 年代と 1990 年代には、「LGBT の里親と養親には養育が困難だと思われる子どもが預けられることが多い」(鍵括弧は監訳者追記) というエビデンスがあった (Hicks, 1996; Hicks and McDermott, 1999)。その点については変わってきたにも関わらず、New Family Social (2014 年) の調査は、そうした傾向が LGBT の里親申請者には依然認識されていることを証明した。実際、里親になろうと考えている調査対象者の 57%が、それは真だと思っていた一方、認定された LGBT の里親ではそう思っているのは 37%だけだった。

子どもと里親のマッチングに関して、研究ではすべての養育関係者の態度を調査した知見は、「アフリカ系アメリカ人と白人の保守層の一部はどちらも、ゲイとレズビアンの世帯に子どもを預けることに反対する人が多い」ことが明らかになった (Jayaratne et al., 2008, p964)。

子どもの委託の準備

さまざまな研究の中の多くの里親による心配の声は、子どもや若者が LGBT の里親に預けられる前に、準備をすることの重要性である。措置のための準備が足りない — 子どもが委託先の里親についてあまり知らない、里親が受け入れる子どもについてもよく知らない — といったことも里親一般に見受けられている (Brown, Sebba and Luke, 2014)。里親たちは、個々の子どもや若者が LGBT の家庭に預けられたときにさまざまな反応をするのを経験する。多くの子どもはそのことをうまく受け止めるとしても、準備はやはり重要だと考えられる (Goldberg et al., 2012; Hill, 2013; Patrick, 2006)。Patrick and Palladino の研究では、次のことが発見された：

驚くべきことに、ゲイとレズビアン里親は大抵、ケース担当者が彼ら／彼女らの関係についてその家に預けられる里子に何を伝えるかどうか、何も知らなかったのだ。彼ら／彼女らは、ケース担当者が自分たちの代わりにそうした情報を子どもに伝え、情報開示に対する子どもの反応を見守る責任があると感じる一方、里親としては通常なされない経験でもある。
(2009, p338)

ソーシャルワーカーが、里親のセクシュアリティについて子どもたちに話すことに確かな自信を感じるに足りないことは、LGBT の里親に子どもを預ける前の準備が不足していることとも関連する (Patrick and Palladino, 2009)。これと反対に、New Family Social (2014 年) の調査では、LGBT の里親の回答者の 96%は、家族構成とセクシュアリティについて子どもの質問に答える準備ができていると感じていた。

1 人の里親は、多くの子どもにとって、里親のセクシュアリティは重要な関心事ではないと述べていた：私は預かる子どもを乗せて車で家へ帰る途中にいつも、私たちの家族にはお母さんとお父さんではなく、2 人のお父さんがいるんだよと説明します。最初、子どもは興味がなさそうにしたり、少し気になる様子にみえます。私たちは、子どもたちが私たちの関係性についてよりも、眠るベッドや食べる物があるか、安全で安心で大事にされるかをずっと気にしているのだと分かりました。

(Patrick, 2006, p127)

人種とエスニシティ

人種とエスニシティ、地域はレビューした研究では特に取り上げられなかった。Hall (2010 年) の養子縁組の研究によると、ソーシャルワーカーはその他の検討事項よりも同じ人種のマッチングを優先していることが分かった。ソーシャルワーカーが、実親家族の宗教的信念と対立することから、たとえ里親カップルのうち 1 人の女性が子どもと民族的に適合していたとしても、そのレズビアンのカップルの所に子どもたちを預けるのは適切でないと信じている事例があったとする Hicks の研究とは違う結果である (Hicks and McDermott, 1999; Hicks, 2011)。

子どものニーズのためのスーパービジョンとサポート

研究のいくつかは、ほかの多くの里親と同様に (Brown, Sebba and Luke, 2014)、LGBT の里親たちが養育する子どもたちのニーズを満たすため、効果的なソーシャルワーカーのスーパービジョンと支援を求めていることを示した (Goldberg et al., 2012; Hicks and McDermott, 1999; Hill, 2013; Patrick, 2006; Riggs, 2013; Riggs et al., 2010)。とりわけ、実親家族との交流に関して支援等を求めている (Patrick and Palladino, 2009)。

実親家族との交流

Austerberry et. al. (2013) は、里子とその実親家族との交流が里親にとってストレスと緊張の元となり得ることを証明した。彼らは、里親たちが効果的な交流を進めていけるようなソーシャルワークの支援にこそ、焦点をあてる重要性があると論じた。このレビューの研究は、実親との交流に関する良い経験から困難なものまで里親のさまざまな交流の経験を記した Austerberry et al (2013 年) の研究に依拠している (Downs and James, 2006; Goldberg et al., 2012; Hill, 2013; Patrick and Palladino; Hicks and McDermott, 1999)。本レビュー論文における交流以外の分野では、LGBT の里親と異性愛者の里親の違いは、セクシュアリティ、実親家族がどう反応するか、あるいはどのように反応したかについてである。その点、LGBT の里親たちの実際の経験は、自身の抱いていた不安とは異なっていることもよくある (Hill, 2013; Patrick, 2006; Patrick and Palladino, 2009)。例えば、Patrick は里子の実の母親から届いたカードのメッセージを次のように説明している：

あなたたちが私や私の子どもたちのためにどれほどのことをしてくれたか、口で上手く言い表すことはできません。私の心は、あなたが与え表現してくれた愛に対して感謝の気持ちでいっぱいです。あなたは、両手をさしのべ家庭を開いて、子どもたちが人生の新たなスタートを切るのを手助けしてくれました。あなたに神のご加護がありますように、これからもずっと安全に過ごせるように祈っています。
(Patrick, 2006, p130)

また Goldberg et. al. の調査 (レズビアン、ゲイカップル含めた里親への調査) 回答者の 1 人は次のように述べた：「ジョーにとって実親家族との関係を持ち続けることは良いことだと思います・・・そして、私を実親家族と関係を持つことにより、うまくやっていけるでしょう」。(2012, p308)

これらのポジティブな経験とアプローチがある一方、Downs and James の知見によれば、LGBT の里親のうちごく一部の人は、自身の性的指向が実親家族にとっては懸念事項になっていると認識している (その調査対象のうち男性のほぼ 27%、女性の 30%)。Downs and James のコメント：「里子、里親、そして子どもとその実親家族との関係性を安定的にするためには、実親のもつ里親の性的指向に対する懸念についてうまくスーパービジョンしなければならない」。(Downs and James, 2006, p294)

子どもを取り巻くチーム

LGBT の里親が「子どもを取り巻くチーム」の一員になるという経験は、子どものために他者と密接に協力することから、疎外感を感じることまで、様々であった。こうした経験は、里親一般にもいえる (Brown, Sebba and Luke, 2014)。違いがあるとすれば、一部の LGBT の里親は自身のセクシュアリティを理由に、軽んじられていると感じたり、必要以上に細かく調べられたりするといった経験をしたことである (Downs and James, 2006; Goldberg, 2012; Hicks and McDermott, 1999; Patrick and Palladino, 2009; Riggs, 2011; Riggs and Augoustinos, 2009)。

以下はある 1 人の里親の素晴らしい体験が記されている：

私たちは里親養育を始めた時から、同じリンクワーカー (*link worker*) でした。それは非常に稀ですが、関係を築くにはとても良いことでした。私たちは 2 人の CAMHS (*Child and Adolescent Mental Health Services*) のワーカーからも素晴らしい支援を受けました。自治体には 2 人の家族療法士がいて、課題を話し合うために問い合わせることができます。

(Hill, 2013, p57)

LGBT の里親にとって、自由に発言でき、里子をあずかる他の里親たちとは違う意見を言える場所があることは、「安全なケア」につながる。これに関して、エージェンシーの方針が、必ずしも子どもの利益のためになっていないことがあると感じている。同じ調査で収集された 2 ケースから率直な意見を紹介する：

「私は、安心なケアの方針 (safe caring policies) ¹ に疑問を持っています。自分の甥っ子をくすぐっているのに、里子の男の子をくすぐらずにいられるでしょうか？私は時々、方針が現実的ではなく、子どものニーズを第一に考えるべきだと思います。」

(2013, p64)

¹ 注釈 (監訳者) : SAFE CARE POLICY ともいわれる。より良い実践のための指針であり、代替養護下の子どもの傷つくりリスクを最小限にし、子どもと養育者家庭が安全な環境で過ごすために示すもの。

LINCOLNSHIRE CHILDREN 'S SERVICES PROCEDURES MANUAL, '1.1.8 SAFE CARE POLICY'

[HTTPS://LINCOLNSHIRECHILDCARE.PROCEDURESONLINE.COM/P_SAFE_CARE_POL.HTML](https://lincolnshirechildcare.proceduresonline.com/p_safe_care_pol.html) (2021 年 3 月 27 日閲覧)

安心なケアの方針は、まったく役に立たないものだと思います。あなたが子どもにキスをしたり抱いたりできるのは当然です。ようは、あなたがどこに一線を引くかの問題です。私は親で、子どもがしてほしいことをします (Hill, 2013, p153)。安心なケアのためのバランスのとれたやり方とは、ひとりひとり違う子どものニーズや経験を考慮することであろう。ある子はくすぐりっこが好きでも、他の子は違うかもしれない。

子どもを取り巻くチームの大事なメンバーであると感じることが重要なのは、里親が子どものニーズに応えるのを可能にするからだ。委託の安定性については、エージェンシーの支援同様 LGBT の里親の潜在的な認識についても言及する推論的文書に要点が述べられている：

LGBT の里親は、親としての価値を異性愛者やシスジェンダーの里親らとは違う方法で証明しなければならぬと感じているため、とりわけ傷つきやすい可能性がある。個々の LGBT の里親の課題とストレングスを認め、彼ら／彼女らが子どもの持つ困難の背景を理解しやすくする支援は、委託がうまくいくようマネジメントすることにつながる。

(Ariyakulkan and Mallon, 2012)

サポートネットワークとグループ

LGBT の里親の支援は、公的なエージェンシーの支援グループだけでなく、自分たちの友達関係や家族のネットワークなど様々である (Downs and James, 2006; Goldberg et al., 2012; Hicks and McDermott, 1999; Riggs, 2013)。多くの LGBT の里親にとって、エージェンシーの里親支援グループは異性愛主義優勢でありグループの中で周辺化されているように感じたため、役に立たないと実感していた (Hicks and McDermott, 1999)。エージェンシーの支援グループに加え、LGBT の里親は、LGBT の里親に特化した自分たちの支援ネットワークを作っており、カナダの LGBTQ Parenting Network や英国の New Family Social がその一例である。

トレーニング

トレーニングは、里親個人の成長のための 1 要素である。また里親が自身の知識とスキルを向上させると同時に、他の里親たちと一緒にトレーニングできる経験の 1 つとなる、サポート源になりうる。しかし、LGBT の里親にとってトレーニングは、ときに異性愛規範的であって疎外されているように感じることもある。例えば、トレーナーは、参加者は皆異性愛者であることを前提にして規範的な言葉づかいをしていた (De Jong and Donnelly, 2015; Mallon, 2007; Riggs, 2004)。Goldberget.al. (2012) と Hicks and McDermott (1999) の研究における LGBT の里親の中には、エージェンシーにより用意されたトレーニングは問題含みで、異性愛規範的なトレーニング資料に疎外感を覚えた人もいた。

残された課題

今回のレビュー報告の意図は、LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンに関する研究調査のエビデンスを考察することである。明らかになったのは、トランスジェンダーとバイセクシュアルの里親に関する調査結果がないことである。これは、現在の知見において不足する部分である。そのため里親、ソーシャルワーカーと里親支援機関は、バイセクシュアルとトランスジェンダーの養育者に関する情報については実践ガイドと推論的な報告書等に依拠している (Downing, 2013; Pyne, 2012; Ross and Dobinson, 2013; Tye, 2003)。

今のところ、多くの LGBT の里親について、どこにおり、どう活用すべきかに関する知識は限られている。そうした情報は、エージェンシーが LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョン、そして彼ら／彼女らをどのように活用するかに関する明確な方針を持っていれば、マッピングできよう。

レズビアンとゲイの里親とソーシャルワーカーのリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンに関する認識と経験についての調査結果はあるが、同じエージェンシー内のさまざまな異なる認識と経験について多面的に捉えたエビデンスはほとんどなく、その研究は 2 つの調査を含んでいるものの、例えば二次データ分析のような定量的調査研究はみられない。

レズビアンとゲイの里親が異性愛規範の埋め込まれる実践を経験した時の考えと気持ちについて、考慮すべきエビデンスと、反対に彼らが「良い」と感じた実践のエビデンスとがあった。しかし目下のところ、良くない実践やベストプラクティスを考慮していない知見もある。

このレビューには子どもと若者の声をできる限り取り込んだが、LGBT の里親に預けられている、または預けられたことのある子どもと若者の声と経験に関する調査結果は不足している。里親養育の実践について考察と発展のために子どもたちの声は重要である。

結論

LGBT の里親は、他の里親たちがしているように、リクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンでさまざまな経験をしている。

しかし、今後認定される、または現在認定されている LGBT の里親は、2つのダイナミクスを経験する。1つは、里親養育支援機関、ソーシャルワーカー、里子や若者とその家族が、LGBT の里親のジェンダーやセクシュアリティにどう反応するかに関する、里親の自己認識である。もう1つは、里親支援機関、ソーシャルワーカー、里子や若者とその家族が、実際に里親のジェンダーやセクシュアリティにいかなる反応をするかである。

比較的最近まで、LGBT の人々を対象とする保護的な法律は不十分であった。異性愛規範もしくは同性愛嫌悪的な里親養育とソーシャルワークの活動が、里親の認識と経験を扱った研究の中にはいまだにみられる。これは、包括的で効果的なリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンのエビデンスの蓄積によって少数派になりつつある。しかし、里親養育とソーシャルワーク実践の質が有益で「良い」かどうかは、大抵、個々の実践者に依拠している。したがってソーシャルワーカー、里親とエージェンシーにとって、ジェンダーとセクシュアリティ、そしてそれが LGBT の人々の生活の中で果たす部分について知り、それについて過度に着目することなく、むしろ全体的なアプローチに含めることが重要である。

このレビューに含まれる研究が示したのは、実践において進歩がみられるようになり、最近の調査では有益な実績や実践例が数多く実証されたことだ。しかし、長期的にみて明確に直線的な進歩がみられたわけではなく、異性愛規範にもとづくソーシャルワーク実践は最近の研究でも依然として見受けられた。

本レビューにおいて、効果的な LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンについて特に重要な部分は以下である：

- LGBT の里親のリクルートは、里親になることを考える本人が自身のセクシュアリティは里親になる際の障壁になるという前提をもつことによって、阻まれる可能性がある。
- LGBT の申請者は、そのリクルートに関して明確な方針があるエージェンシーによって支援される。
- LGBT の里親リクルートにおける地域的差異は、部分的には法律および政策的枠組みの違いによる。たとえば、南オーストラリアでは、LGBT の里親養育は公には承認されていない。
- ジェンダー役割とセクシュアリティに関するソーシャルワーカーの信条は、LGBT の人々が養親や里親になることについての考え方に影響を及ぼし、それに続くアセスメントプロセスにも影響がでる可能性がある。

- ・ LGBT の里親のリクルート、アセスメントやサポートにおいて、里親支援機関が公営か私営かによる顕著な違いはなかった。だが、LGBT の里親たちは私営のエージェンシーの方が受け入れてもらいやすいと感じている。
- ・ スーパーバイズを担うソーシャルワーカー（SSW）と里子のソーシャルワーカーによる LGBT の里親の支援とスーパービジョンの質は、子どもや若者のニーズを満たす養育者の能力に影響を及ぼす。
- ・ 里親の家に子どもが到着する前に、子どもや若者が LGBT の里親の元へ行く準備をしておくことは、役に立つと考えられている。
- ・ 他の里親たちと同様に LGBT の里親は、子どもたちが実親家族との交流を可能にするためのサポートを認識し、必要としている。また LGBT の里親は子どもの実親家族からの同性愛嫌悪を気にする可能性がある。

要約すれば、LGBT の里親との効果的なソーシャルワーク実践は、より一般的に行われる効果的なソーシャルワーク実践を密に反映しているのだ。しかし、エージェンシーと里親、ソーシャルワーカーは、現在も歴史的にみても、同性愛に対する嫌悪の感情による影響に気を配らなければならない。同時にエージェンシーと里親、ソーシャルワーカーらは、自分たちの実践が、現在継続している（冒頭で挙げたような）ダイナミクスを和らげるということを確認する必要がある。里親養育の焦点は、子どもと若者が、温かく、回復できる安全な里親家庭に委託することであり、LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンはそれを目標とする必要がある。

政策と実践のための提言

研究のエビデンスにいくつかのギャップが見られたことから、提言はあくまでも一時的なものである。里親養育支援機関（fostering agency）に次のことを提言する：

- ・ 現在の知見において可能な限り効果的に、LGBT の里親のリクルート、アセスメント（委員会を含める）とスーパービジョンに関する政策と実践を構築・レビューすること。
- ・ LGBT の里親のリクルートについての既存の方針やアセスメントを常用し、アセスメントが異性愛規範的でないだけでなく、厳格で総体的かつ分析的で、セクシュアリティやジェンダーについて軽視するでも着目し過ぎるでもないということを確認すること。申請者のジェンダーやセクシュアリティはどのように里親養育に関連するか、どのエージェンシーのスーパービジョンと支援が助けになるかという申請者の検討を促進することが、アセスメントの不可欠な要件となる。
- ・ マッチングの決定が、異性愛規範の思い込みにとらわれず、里親がその子どものニーズに適しているかどうかを確認すること。

- 里親養育の委員会のプロセスが、包括的で、個人またはカップルの適性を考慮したものであり、ジェンダーやセクシュアリティに関係なく里親としての認定を維持すること。つまり、今後の里親の役割に何がふさわしいかを熟慮すること。
- LGBT の里親が SSW と里子のソーシャルワーカーから支援とスーパービジョンを受け、子どもや若者のケアを効果的にできることを確認すること。
- LGBT の里親が LGBT の支援グループから援助を受けられるようにし、そうしたグループに関する情報を活用できるようにすること。エージェンシー独自の里親支援グループが開放的であり、結果として LGBT の里親が安心できるようにすること。
- 里親の研修プログラムの内容とプロセス、構造を検証し、すべての里親が尊重され、価値を認められ、受け入れられていると感じられるものになっているか確認すること。
- ソーシャルワーカーが、セクシュアリティやジェンダーに関係なくすべての里親と効果的に活動する自信とスキル、態度、知識を備えていると確認すること。
- 常に里子や若者を中心として、里親養育の実践と決断をすること。

今後の調査研究への提案

このレビューにより、既存の知見にいくつかの課題があることが明らかになった。今後の研究を次のように行うことを提案したい：

- バイセクシュアルとトランスジェンダーの里親養育を検証すること、里親支援機関、バイセクシュアルとトランスジェンダーの里親、ソーシャルワーカーの認識とリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンの実践に基づいて効果的な実践を見出すこと。
- 全国、または州ごとに、LGBT の里親が現在住んでいる場所、これらを子どもと若者の委託にどのように利用できるか、また家庭の状況（例：兄弟姉妹、年長の子ども、特別なケアが必要な子どもなど）をマッピングすること。この情報は、関連する里親養育支援機関の、LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンに関する政策と一緒に検討される。このような調査結果により、LGBT の里親が特定の地域や特定の里親エージェンシーに集まっていないかが明らかになる（そのようになると言われている）。
- 地理的に広がっている多くの里親エージェンシーの中で、LGBT の里親のリクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンについての政策と実践を分析すること、LGBT の里親、審査にかかわる人（委員会を含む）、SSW、独立した審査官、医師や里子のソーシャルワーカーといったチームに対して、リクルート、アセスメント、サポートとスーパービジョンに関する認識と経験を収集するための調査を行うこと、LGBT の里親に効果的な実践をさらに知らせるための機会を検討できるような調査を実施すること。
- LGBT の里親のケアを受けた子どもと若者、その家族の認識と経験を前面に出すこと。

References

- American Psychological Association (2005). *Lesbian and gay parenting*, Washington: American Psychological Association.
- Ariyakulkan, L. and Mallon, G.P. (2012). *Supporting and retaining LGBT foster and adoptive parents*, New York: National Resource Centre for Permanency and Family Connections, <http://www.nrcpfc.org/index.html> (accessed 17.11.14).
- Austerberry, H., Stanley, N., Larkins, C., Ridley, J., Farrelly, N., Manthorpe, J. and Hussein, S., (2013). Foster carers and family contact: foster carers' views of social work support, *Adoption and Fostering*, 37(2), pp.116-129.
- Averett, P., Nalavany, B., and Ryan, S. (2009). An evaluation of gay/lesbian and heterosexual adoption, *Adoption Quarterly*, 12(3-4), pp.129-151.
- Beesley, P. (2010). *Making good assessments: A practical resource guide*, London: BAAF.
- Brodzinsky, D.M. (2012). Adoption by lesbians and gaymen: A national survey of adoption agency policies and practices, in D.M., Brodzinsky, and A. Pertman (Eds), *Adoption by lesbians and gay men*, Oxford: Oxford University Press, pp.62-84.
- Brodzinsky, D. M., Patterson, C. J., and Vaziri, M. (2002). Adoption agency perspectives on lesbian and gay prospective parents: A national study, *Adoption Quarterly*, 5(3), pp.5-23.
- Brodzinsky, D.M., Green, R-J., and Katuzny, K. (2012). Adoption by lesbians and gay men: What we know, need to know, and ought to do, in D.M. Brodzinsky, and A. Pertman (Eds), *Adoption by Lesbians and Gay Men*. Oxford: Oxford University Press, pp.233- 253.
- Brodzinsky, D.M., and Pertman, A. (2012). *Adoption by Lesbians and Gay Men*, Oxford: Oxford University Press.
- Brooks, D., and Goldberg, S. (2001). Gay and lesbian adoptive and foster care placements: Can they meet the needs of waiting children? *Social Work*, 46(2), pp.147-157.
- Brooks, D., Kim, H and Wind, L.H. (2012). Supporting gay and lesbian adoptive families in D.M., Brodzinsky, and A. Pertman (Eds), *Adoption by Lesbians and Gay Men*, Oxford: Oxford University Press, pp.150-183.
- Brown, H. C. (1991). Competent child-focused practice: Working with lesbian and gay carers, *Adoption and Fostering*, 15(2), pp.11-17.
- Brown, H.C. (2011). The assessment of lesbian and gay prospective foster carers - twenty years of practice and what has changed? In T. Hafford- Letchfield and P. Dunk-West (Eds), *Sexual identities and sexuality in social work: Research and reflections from women in the field*, Farnham: Ashgate, pp.105-120.
- Brown, H. C. and Cocker, C. (2008). Lesbian and gay fostering and adoption: Out of the closet into the mainstream? *Adoption and Fostering*, 32(4), pp.19-30.
- Brown, H.C. and Kershaw, S. (2008). The legal context of working with lesbians and gay men, *Social Work Education*, 27(2), pp.122-130.
- Brown, H.C., Sebba, J. and Luke, N. (2014) *The role of the supervising social worker in foster care: An international literature review*, Oxford: Rees Centre, Oxford University.

Brown, S., Smalling, S., Groza, V., and Ryan, S. (2009). The experiences of gay men and lesbians in becoming and being adoptive parents, *Adoption Quarterly*, 12(3-4), pp.229-246.

Cocker, C. and Brown, H.C. (2010). Sex, sexuality and relationships: Developing confidence and discernment when assessing lesbian and gay prospective adopters, *Adoption and Fostering*, 34(1), pp.20-32.

Crouch, S.R., Watters, E., McNair, R., Power, J. and Davis, E. (2014). Parent-reported measures of child health and wellbeing in same-sex parent families: A cross-sectional survey', *BMC Public Health*, 14: 635

de Jong, A. and Donnelly, S. (2015). Recruiting, assessing and supporting lesbian and gay adopters, London: BAAF.

Downing, J.B. (2013). Transgender-parent families, in A.E. Goldberg, and K.R. Allen, (Eds), *LGBT-parent families: Innovations in research and Implications for practice*, New York: Springer pp.105-115.

Downs, A. C. and James, S. E. (2006). Gay, lesbian, and bisexual foster parents: Strengths and challenges for the child welfare system. *Child Welfare: Journal of Policy, Practice, and Program*, 85(2), pp.281-298.

Dugmore, P. and Cocker, C. (2008). Legal, social and attitudinal changes: An exploration of lesbian and gay issues in a training programme for social workers in fostering and adoption. *Social Work Education*, 27(2), pp.159-168. Erasing 76 crimes (2014). 79 countries where homosexuality is illegal, <http://76crimes.com/76-countries-where-homosexuality-is-illegal> (accessed 26.11.14).

Farr, R.H., Forssell, S.L. and Patterson, C.J. (2010). Parenting and child development in adoptive families: Does parental sexual orientation matter?' , *Applied Developmental Science*, 14(3) pp.164-178.

Farr, R.H. and Patterson, C.J. (2013a). Lesbian and gay adoptive parents and their children, in A.E. Goldberg, and K.R. Allen, (Eds), *LGBT-parent families: Innovations in research and implications for practice*, New York: Springer pp.39-55.

Farr, R.H. and Patterson, C.J. (2013b). 'Coparenting among lesbian, gay, and heterosexual couples: Associations with adopted children's outcomes' , *Child Development*, 84(4), pp.1226-1240.

Gates, G.J., Badgett, M.V.L, Macomber, J.E. and Chambers, K. (2007). *Adoption and foster care by gay and lesbian parents in the United States*, Los Angeles: The Williams Institute (accessed 19.11.14) <https://escholarship.org/uc/item/2v4528cx#page-1>. Goldberg, A. E. (2010). *Lesbian and gay parents and their children: research on the family life cycle*, Washington: American Psychological Association.

Goldberg, (2012). *Gay dads: Transitions to adoptive fatherhood*, New York: New York University Press. Goldberg, A. E., and Allen, K. R. (Eds), (2013). *LGBT-parent families: Innovations in research and implications for practice*. New York: Springer.

Goldberg, A.E. and Gianino, M. (2012). Lesbian and gay Adoptive parent families: Assessment, clinical issues, and intervention, in D.M., Brodzinsky, and A, Pertman, (Eds) *Adoption by lesbians and gay men*, Oxford: Oxford University Press, pp.204-232.

Goldberg, A. E., Moyer, A. M., Kinkler, L. A., and Richardson, H. B. (2012). When you're sitting on the fence, hope's the hardest part: Challenges and

experiences of heterosexual and same-sex couples adopting through the child welfare system, *Adoption Quarterly*, 15(4), pp.288-315.

Goldberg, A.E., Gartrell, N.K. and Gates, G. (2014). Research report on LGB-parent families, Los Angeles: The Williams Institute.

Golombok, S. (2000). *Parenting: What really counts?* London: Routledge.

Golombok, S. Perry, B. Burston, A. Murray, C. Mooney-Somers, J. Stevens, M. Golding, J. (2003). Children with lesbian parents: A community study, *Developmental Psychology*, 39(1), pp.20-33.

Golombok, S. Spencer, A. and Rutter, M. (1983) 'Children in lesbian and single parent households: Psychosexual and psychiatric appraisal' , *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 24, pp.551-572.

Golombok, S., Mellish, L., Jennings, S. and Casey, P., Lamb, M.E. and Tasker, F. (2014). Adoptive gay father families: Parent-child relationships and children's psychological adjustment, *Child Development*, 85(2), pp 456-468.

Golombok, S. and Tasker, F. (1996) Do parents influence the sexual orientation of their children? Findings from a longitudinal study of lesbian families, *Developmental Psychology*, 32, pp.3-11.

Guasp, (2010). *Different families: The experiences of children with lesbian and gay parents*, Cambridge: Centre for Family Research, University of Cambridge/
London: Stonewall.

Hall, S. (2010). Gauging the gatekeepers: How do adoption workers assess the suitability of gay, lesbian, or bisexual prospective parents? *Journal of GLBT Family Studies*, 6(3), pp.265-293.

Hicks, S. (1996). The 'last resort' ? Lesbian and gay experiences of the social work assessment process in fostering and adoption, *Practice*, 8(2), pp.15-24.

Hicks, S. (2000). 'Good lesbian, bad lesbian...' : Regulating heterosexuality in fostering and adoption assessments. *Child and Family Social Work*, 5(2), pp.157-168.

Hicks, S. (2005a). Lesbian and gay foster care and adoption: A brief UK history, *Adoption and Fostering*, 29(3), pp.42-56.

Hicks, S. (2005b). Queer genealogies: Tales of conformity and rebellion amongst lesbian and gay foster carers and adopters, *Qualitative Social Work*, 4(3), pp.293-308.

Hicks, S. (2006a). Genealogy's desire: Practices of kinship amongst lesbian and gay foster-carers and adopters, *British Journal of Social Work*, 36(5), pp.761-776.

Hicks, S. (2006b). Maternal men - perverts and deviants? Making sense of gay men as foster carers and adopters, *Journal of GLBT Family Studies*, 2(1), pp.93-114.

Hicks, S. (2007). *Practice Guidance on Assessing Gay and Lesbian Foster Care and Adoption Applicants*, Manchester: Children's Services Manchester City Council

Hicks, S. (2008). Gender Role Models... who needs' em?! *Qualitative Social Work*, 7(1), pp.43-59.

Hicks, S. (2009). Sexuality and the 'relations of ruling' :Using institutional ethnography to research lesbian and gay foster care and adoption, *Social Work and*

Society, 7(2), pp.234-245.

Hicks, S. (2011). *Lesbian, gay, and queer parenting: Families, intimacies, genealogies*, Basingstoke:Palgrave/Macmillan.

Hicks, S. (2013). 'lesbian, gay, bisexual, and transgender parents and the question of gender', in A.E. Goldberg and K.R. Allen (Eds) *LGBT-parent families: Innovations in Research and Implications for Practice*, New York: Springer, pp 149-162.

Hicks, S., and McDermott, J. (1999). *Lesbian and gay fostering and adoption: Extraordinary yet ordinary*, London: Jessica Kingsley.

Hill, N. (2009). *The pink guide to adoption for lesbians and gay men*, London: BAAF

Hill, N. (2013). *Proud parents: Gay men and lesbians share their experiences of adopting and long-term fostering*, London: BAAF.

Jayarathne, S., Faller, K. C., Ortega, R. M., and Vandervort, F. (2008). African American and white child welfare workers' attitudes towards policies

involving race and sexual orientation, *Children and Youth Services Review*, 30(8), pp.955-966. Jennings, S., Mellish, L., Tasker, F., Lamb, M., and

Golombok, S. (2014). 'Why adoption? Gay, lesbian, and heterosexual adoptive parents' reproductive experiences and reasons for adoption, *Adoption Quarterly*, DOI: 10.1080/10926755.2014.891549.

Kinkler, L. A., and Goldberg, A. E. (2011). Working with what we've got: Perceptions of barriers and support among small-metropolitan-area same-sex adopting couples, *Family Relations*, 60(4), pp.387-403.

Lavner, J., Waterman, J., and Peplau, L. (2014). Parent adjustment over time in gay, lesbian, and heterosexual parent families adopting from foster care, *The American Journal Of Orthopsychiatry*, 84(1),pp.46-53. LGBTQ Parenting Network, <http://lgbtqpn.ca>.

Logan, J., and Sellick, C. (2007). Lesbian and gay fostering and adoption in the United Kingdom. *Social Work and Social Sciences Review*, 13(2), pp.35-47.

Logan, J. and Sellick, C. (2011). 'Lesbian and gay fostering and adoption in the United Kingdom:Prejudice, progress and the challenges of the Present' in E. Harlow, (Ed) *Foster Care Matters*, London: Whiting and Birch.

Mallon, G.P. (2004). *Gay men choosing parenthood*, New York: Columbia University Press.

Mallon, G. P. (2006). *Lesbian and gay foster and adoptive parents - Recruiting, assessing, and supporting an untapped resource for children and youth Virginia: Child Welfare League of America.*

Mallon, G. P. (2007). Assessing lesbian and gay prospective foster and adoptive families: A focus on the home study process, *Child Welfare*, 86(2), pp.67-86.

Mallon, G. P. (2011). The home study assessment process for gay, lesbian, bisexual, and transgender prospective foster and adoptive families. *Journal of GLBT Family Studies*, 7(1-2), pp.9-29.

Mallon, G.P. (2012). 'Lesbian and gay prospective foster and adoptive families: The homestudy assessment process in D.M., Brodzinsky, and A.Pertman (Eds), *Adoption by Lesbians and Gay Men*, Oxford: Oxford University Press, pp.130-149.

Mallon, G. P. and Betts, B. (2005). *Recruiting, assessing and supporting lesbian and gay carers and adopter*, London: BAAF.

Matthews, J. D., and Cramer, E. P. (2006). Envisaging the adoption process to strengthen gay and lesbianheaded families: Recommendations for adoption

professionals. *Child Welfare*, 85(2), pp.317-340.

McDermid, S., Holmes, L., Kirton, D. and Signoretta, P. (2012) *The demographic characteristics of foster carers in the UK: Motivations, barriers and messages*

for recruitment and retention, London: ChildhoodWellbeing Research Centre.

Mellish, L., Jennings, S., Tasker, F., Lamb, M., and Golombok, S. (2013). *Gay, lesbian and heterosexual adoptive families*, London: BAAF.

New Family Social, <https://www.newfamilysocial.org.uk/resources/new-to-adoption-and-fostering>.

New Family Social (2014). *2014 NFS Survey Full results: Actual and perceived barriers*, London: New Family Social
<https://www.newfamilysocial.org.uk/resources/research/new-family-social-research/2014-nfs-survey-actual-and-perceived-barriers/> (accessed 15.11.14).

Parrott, B., MacIver, A. and Thoburn, J. (2007). *Independent inquiry report into the circumstances of child sexual abuse by two foster carers in Wakefield*, Wakefield: Wakefield Council.

Patrick, D. (2006). The story of a gay foster parent, *Child Welfare*, 85(2), pp.123-132

Patrick, D and Palladino, J. (2009). 'The community interaction of gay and lesbian foster parents' in T.J. Socha and G.H. Stamp (Eds), *Parents and children communicating with society*, New York: Routledge, pp 323-342.

Patterson, C.J. (1992) Children of lesbian and gay parents, *Child Development*, 63(5) pp.1025-1042.

Patterson, C. J. (2004). *Gay fathers*. In M. E. Lamb (Ed.), *The role of the father in child development* (4th Edition), New York: Wiley, pp.397-416.

Patterson, C. J. (2005). *Lesbian and gay parents and their children: Summary of research findings*, *Lesbian and gay parenting: A resource for psychologists* (2nd Edition), Washington: American Psychological Association.

Patterson, C.J. (2006) Children of lesbian and gay parents, *Current Directions in Psychological Science*, 15, pp.241-4.

Patterson, C. J. (2009). Children of lesbian and gay parents: Psychology, law, and policy, *American Psychologist*, 64(8), pp.727-736.

Patterson, C.J. and D'Augelli, A.R. (1998) *Lesbian and bisexual Identities in families: Psychological perspectives*, Oxford: Oxford University Press.

Patterson, C. J. and Riskind, R. G. (2010). To be a parent: Issues in family formation among gay and lesbian adults. *Journal of GLBT Family Studies*, 6(3), pp.326-340.

Patterson, C.J. and Wainright, J.L. (2012). Adolescents with same-sex parents: Findings from the national longitudinal study of adolescent health, in D.M., Brodzinsky, and A. Pertman, (Eds), *Adoption by lesbians and gay men*, Oxford: Oxford University Press, pp.85-111.

Peake, L. and Townsend L. (2012) *The motivations to foster: A toolkit for fostering services*, London: the Fostering Network.

Pew Research Center (2014) *The Global Divide on Homosexuality*, Washington: Pew Research Center
<http://www.pewglobal.org/files/2014/05/Pew-Global-Attitudes-Homosexuality-Report-REVISED-MAY-27-2014.pdf> (accessed 22.11.14).

Polikoff, N. D. (1997). Resisting "don't ask, don't tell" in the licensing of lesbian and gay foster parents: Why openness will benefit lesbian and gay youth, *Hastings Law Journal*, 48(6), pp.1183-1193.

Pyne, J. (2012). *Transforming Family: Trans Parents and their Struggles, Strategies, and Strengths*, Toronto: LGBTQ Parenting Network.

Ricketts, W., and Achtenberg, R. (1989). Adoption and foster parenting for lesbians and gay men: Creating new traditions in family. *Marriage and Family Review*, 14(3-4), pp.83-118.

- Riggs, D. W. (2004). Resisting heterosexism in foster carer training: Valuing queer approaches to adult learning and relationality, *Canadian Online Journal of Queer Studies in Education*, 1(1).
- Riggs, D. W. (2006). Developmentalism and the rhetoric of best interests of the child: Challenging heteronormative constructions of families and parenting in foster care, *Journal of GLBT Family Studies*, 2(2), pp.57-73.
- Riggs, D.W. (2007). Reassessing the foster-care system: Examining the impact of heterosexism on lesbian and gay applicants', *Hypatia*, 22:1, pp.132-148.
- Riggs, D.W. (2010). *What about the children? Masculinities, sexualities and hegemony*, Cambridge: Cambridge Scholars Publishing.
- Riggs, D. W. (2011). Australian lesbian and gay foster carers negotiating the child protection system: Strengths and challenges, *Sexuality Research and Social Policy*, 8(3), pp.215-226.
- Riggs, D. W. (2013). Perceptions of support among Australian lesbian and gay foster carers, In T. G.Morrison, M. A. Morrison, M. A. Carrigan, and D. T. McDermott (Eds), *Sexual minority research in the new millennium*, New York: Nova Science Publishers, pp.93-106.
- Riggs, D. W. and Augoustinos, M. (2009). Institutional stressors and individual strengths: Policy and practice directions for working with Australian lesbian and gay foster carers, *Practice: Social Work in Action*, 21(2), pp.77-90.
- Riggs, D. W. Delfabbro, P. H., and Augoustinos, M. (2010). Foster fathers and carework: Engaging alternate models of parenting. *Fathering: A Journal of Theory, Research, and Practice about Men as Fathers*, 8(1), pp.24-36.
- Ross, L. E., Epstein, R., Anderson, S., and Eady, A. (2009). Policy, practice, and personal narratives: Experiences of LGBTQ people with adoption in Ontario, Canada. *Adoption Quarterly*, 12(3-4), pp.272-293.
- Ross, L.E. and Dobinson, C. (2013). Where is the "B" in LGBT Parenting? A Call for Research on Bisexual Parenting in Goldberg, A.E. and Allen, K.R. (Eds), *LGBT-Parent Families: Innovations in research and Implications for Practice*, New York: Springer pp.87- 104.
- Ryan, S. D. (2000). Examining social workers' placement recommendations of children with gay and lesbian adoptive parents. *Families in Society*, 81(5), pp.517-528.
- Ryan, S. D. and Brown, S. (2012). Gay and lesbian adoptive parents: Stressors and strengths' in D.M., Brodzinsky, and A, Pertman, (Eds), *Adoption by Lesbians and Gay Men*, Oxford: Oxford University Press, pp.184-203.
- Ryan, S. D., Pearlmutter, S., and Groza, V. (2004). Coming out of the closet: Opening agencies to gay and lesbian adoptive parents, *Social Work*, 49(1), pp.85-95.
- Ryan, S., and Whitlock, C. (2008). Becoming parents: Lesbian mothers' adoption experience. *Journal of Gay and Lesbian Social Services*, 19(2), pp.1-23.
- Saffron, L. (1996). *What about the children?' Sons and daughters of lesbian and gay parents talk about their lives*, London: Cassell.
- Sebba, J. (2012). *Why do people become foster carers? An international literature review*, Oxford: Rees Centre, Oxford University.
- Shernoff, M. (1996). Gay men choosing to be fathers. *Journal of Gay and Lesbian Social Services*, 4(2), pp.41-54.
- Skeats, J. and Jabri, J. (eds) (1988) *Fostering and adoption by lesbians and gay men*, London: London Strategy Unit.
- Spivey, C.A. (2006). Adoption by same-sex couples, *Journal of GLBT Family Studies*, 2(2), pp. 20-56.

- Stonewall (2010). A guide for gay dads, London:Stonewall [http://www.stonewall.org.uk/ documents/a_guide_for_gay_dads.pdf](http://www.stonewall.org.uk/documents/a_guide_for_gay_dads.pdf) (accessed 25.10.14).
- Sudol, T. (2010). LGBT adoptive and foster parenting, New York: National Resource Center for Permanency and Family Connections.
- Tasker, F. (2005) Lesbian mothers, gay fathers and their children: a review, *Journal of Developmental and Behavioral Paediatrics*, 26, pp.224-40.
- Tasker, F. and Bellamy, C. (2007) Reviewing lesbian and gay adoption and foster care: the developmental outcomes for children, *Family Law*, 37, pp.473-570.
- Tasker, F. and Golombok, S. (1991) Children raised by lesbian mothers - The empirical evidence, *Family Law*, pp.184-7.
- Tasker, F. and Golombok, S. (1995) Adults raised as children in lesbian families, *American Journal of Orthopsychiatry*, 65, pp.203-215.
- Tasker, F.L. and Golombok, S. (1997) *Growing up in a lesbian family: Effects on child development*. London:The Guilford Press.
- Tasker, F., and Patterson, C. J. (2007). Research on gay and lesbian parenting: Retrospect and prospect, *Journal of Gay, Lesbian, Bisexual and Transgender Family Studies*, 3, pp.9 - 34.
- Tye, M. C. (2003). Lesbian, gay, bisexual, and transgender parents. *Family Court Review*, 41(1), pp.92-103.
- US Department of Health and Human Services (2014). Frequently Asked Questions From Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgender (LGBT) Prospective Foster and Adoptive Parents https://www.childwelfare.gov/pubs/factsheets/faq_lgbt.cfm (accessed 6.12.14).

早稲田大学大学院総合研究機構
社会的養育研究所
監訳チーム
担当：安藤藍（千葉大学）

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION